

教える秘訣

高校科編



教
え
る
秘
訣

高
校
科
編

ジ
ョ
ン
シ
ャ
ク
ソ
ン
編

¥1,000

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
日曜学校部

教える秘訣

高校科編

ジョン・ジャクソン編
伊藤顯榮訳

序 言

青年期というものは長い間、欲求不満と当惑の年と宣告されてきました。少年の非行についての研究や討論が行われ、それは核戦争の可能性とほとんど同じくらいに憂慮されてきました。今日のティーン・エイジャーたちは、無作法で、怒りっぽく、必然的に六年生とおとなの間のかげ橋でありながら、社会にとつて抑制不可能な脅威であるというレッテルを貼られています。しかし、公平に見るときに、私たちはただちに、J・エドガー・フーパーの統計によるように、今日のティーン・エイジャーのわずかに四パーセントが、法律上の問題を起こしているにすぎないことに気がつきます。全員が乱暴な、いざこざを起こす者ではありません。多くの者はいていいで、礼儀正しい若者で、必要なときにはまじめです。しかし、もちろん、いつも青年特有の活気がほとばしり出ています。

教会の責任は、最も抑圧された内向的な人から、光り輝く外向性の人まで、あるいは、まじめな、法律を守る、けじめのきちんとした青年から、黒い上衣を着た未来の暴力団員まで、教会の置かれた地域にいるすべての青年たちを捕えることです。これが教会の責任ですから、青年たちとの、教会内における最も強力な結びつきである高校科の働きが、ここに自動的に明白に定義づけられていることになります。福音の伝道者であり、講師であり、青年たちへの貢献度が広く知られているカール・S・ウィンターズ

SENIOR HIGH WORKERS HANDBOOK

Compiled by John Jackson

© Copyright, 1962 by the Gospel Publishing House
Springfield, Missouri, U. S. A.

Translated by Akiei Ito

Published by Japan Assemblies of God
Sunday School Department

1978

博士は、ある州の P T A 大会での講演の中で次のように言いました。「今日の子供たちの九十パーセントは有望であり、健康であり、役に立つ。そしてすばらしい未来が期待されている。彼らは、偉大な者となるように彼らを訓練し、指導し、愛してあげる私たちの能力によってのみ、制限されるのである。」彼はさらに、青年たちに対して、品性を築きあげる教育や霊的訓練をするようにと私たちに関心を呼び起こしています。なぜなら、もし私たちがそうしないなら、彼らは「頭は良くても心が野蛮な」者になってしまうからです。私たちはこのような事が、ペンテコステの青年たちに起こらないようにしなければなりません。ですから、青年たちをキリスト者生活の中で訓練することは教会の目的であり、高校科の目的であり、高校科の教師全員の目的であります。これからの数章の中で私たちは、この目的を成就するための原因と理由、方法を追求いたします。しかしながら私たちは、これさえ一度行えば自動的にすべての問題の解決が保証されるというような、うまい話やある種のこつを提供できるわけではありません。私たちができるのは、この電子工学的に制御され、宇宙に挑戦する時代において効果的に働く青年のプログラムは、おきまりの型から抜け出し、変化を与えてやってみるというものでなければならぬことを意識しながら、教師たちの関心を呼び起こし、観察調査をし、新しい提案をすることだけです。すべてにまさって、私たちは、私たちの間にいる青年たちを偉大な者とするために、訓練し、指導し、愛していく必要を示すことにより、青年の指導者たちを奮い立たせることを目指すつもりであります。

教える秘訣 高校科編 目次

序	言	
第一章	高 校 科	1
	日曜学校の責任——高校科の重要性——高校科の組織	
第二章	高校科教師の位置づけ	13
	教師の資格……霊的・肉体的・知的資格	
第三章	高校生の特徴	23
	青年期の特徴——高校生の発達の限度	
第四章	高校生の文化的背景	33
	背景の知識——家庭背景の相違……教育的・社会的・宗教的背景	
第五章	高校科教師の学課の準備	41
	自信を持つべき、準備——祈り深い、実際の準備	

第六章	教室での高校科教師……………	51
	授業時間——教室の中で……………緒論・学科の展開——教師の目的——決心の時——しつけ	
第七章	高校科の教室……………	65
	環境——設備——文書	
第八章	伝道と拡大……………	73
	伝道の進化——高校科ができる事——教師ができる事——ティーン・エイジャー自身ができる事	
第九章	教会における高校生の位置……………	83
	教会と高校生——教会に対する高校生の責任	
第十章	目的の吟味……………	97
	参考資料	

第一章 高校科

日曜学校の高校科は十五歳、十六歳、十七歳、あるいは学校制度によれば高等学校の一年、二年、三年の学生たちのために機能を果たします。これらの高校生たちは非常に広範囲な社会的・遺伝的・人格的背景を持っています。毎年、新学期に新しい生徒の一団がはいつてくる際に、高校科はこれらのティーン・エイジャーをバランスのとれた、よく順応のできる、教養のある若いおとなに作りあげていく挑戦を受けとるのです。そのために高校科には、青年たちにあらゆる機会と社会的便宜を与えるために、世俗的な活動を強調したくさえないかもしれないかもしれません。そのことは賞賛されるべきことであり、また必要なことでもありましょう。しかし、高校科が何にもまさってかかげなければならない本来的な目的は、最初の進級日に高校科にはいつて来た十五歳の不安げな少年が、三年後に確かな自信を持ち、靈的に豊かになり、完全に自分の人生に確信を持った卒業生として出て行くようにさせることです。その事が、そしてその事だけが私たちの目的であるべきです。結果として生じる、意気盛んな、積極的な、光り輝くキリスト者品性は、私たちが主要目標を達成したことによる論理的副産物なのです。

日曜学校の責任

なぜ日曜学校は青年の発達に対して責任があるのでしょうか。結局は家庭が本来的な環境要因ではないのですか。

しかし、家庭はその責任を果たしていません。有名な宣教師であり、講師であるピリー・デイビスは自分の家庭の話を「私はルンペンの子だった」という本の中に書いていますが、彼女はこう説明しています。「家庭は個々人に影響を与える本来的な環境であるが、家庭以外にも少年たちに影響を与えるものがある。」彼女はさらに続けて、よい家庭の影響力が彼女の生活に欠けていたときに、「教会、学校、図書館といった町の機関が私の必要を補った」と言っています。これは教会にとって、また何よりも高校科にとって、何という大きな挑戦でしょう。家庭生活が単なるレストラン、ホテル、洗濯設備になり下がり、「むちを控え、心理学を応用する信者」が、保守的な、聖書を信じる親たちにとって代わる今日の時代においては、教会がその責任を引き受けなければなりません。私たちの高校科は、もっぱら霊的に欠陥のある家庭の子供たちの益のために活動するのだ、という間違った印象を与えないために一言ここでつけ加えますが、私たちは、幸いな特権を持っている子供たちも私たちを必要としていることを

知っています。なぜなら最高のお父さんやお母さんでも教会の支持や激励を必要としているからです。

今日の生活はより多くの余暇を作り出しました。今日のティーン・エイジャーは余暇という新商品と対処する方法を学ばなければなりません。ピリー・デイビスはアメリカ人の生活方式と他の国々のそれとを比較し、その相違を説明してこう指摘しています。恵まれていない国では、人々は自分たちの全時間と、全エネルギーを使って、やっと自分の家族の食べる豆を買えるだけの給料を得ているのに、私たちアメリカ人は異常に恵まれていて、豆は短時間で手に入れることができるので、他の事に時間を自由に使うことができますのです。アメリカの親たちは「ムーンライト」(訳注:「月光」の意味、正規の職業以外に内職をすること)を始めしています。あるいはほかに、お父さんの夜の外出、お母さんの「一切から解放された」夕べ、クラブの会合、成人教育、文化的活動など、多くの考案された気晴らしの活動があります。

親たちがこのように気晴らしをしている一方、ティーン・エイジャーたちは足かせがはずされ、自由になっていきます。それは建設的な、自己啓発的な計画に没入する自由でもあり、あるいは空しくいたずらに走る自由でもあるのです。全国で指導的な結婚カウンセラーの一人は、来たるべき数年間に週の労働時間が極度に短縮するのに伴い、余暇の増大から来る家庭問題が急増すると予言しています。余暇は家族をもっと親密にさせるのでなく、それに対抗する確固とした手段がとられない限り、さらに家族を

分離させることとなります。教会は目ざめ、常に増大していく余暇によって作り出される空白を、満たしていく責任を受けとめなければなりません。

日曜学校はすべての人の必要を満たすことができます。ある牧師は、ティーン・エイジャーの問題のパネル討論会の一員として、教会の責任はある特定の環境において特定の人に奉仕することにあると指摘しました。その環境はその人物に適合するように変化します。少年は学校に行きます。なぜなら、もし行かなければ担当の指導員が役所から来るからです。けれども教会に行くのは別の理由によるのです。

一、両親が少年にとって教会が必要だと考えるので、行かせる。

二、両親は自分たち自身、霊的体験を持っており、子供にもそれを経験させたいと思うので、連れてくる。

三、少年自身、必要を感じ、霊的経験をもちたいと思うので、自分からそれを求める。

自分たちの責任を理解し、受けとめる日曜学校はすべての人の必要を満たすことができます。

高校科の重要性

進歩的教育は、子供は完全に一個人であるから、自分の決断は自分で下すようにさせるべきであると

教えてきました。中学生はまだかなり両親の言うなりになっています。しかし、子供が勝手に高等学校を止めるようなことは許さない同じ親たちが、宗教的な事関する干渉は不適當であるという愚かしい議論をするのです。彼らは子供たちに、自分で教会に行きたいか、行きたくないかを決めるようにさせるべきだと主張します。

確かにこれこそ、高校科が教会にとって重要、不可欠であるという理由なのです。教会は動揺している青年たちをうまく捕え、彼らの注意力を捕え、関心を引き起こし、この年齢グループの中に基本的に存在する霊的飢えかわきを満たし、教会と神のために彼らを追い続けなければなりません。高校科は、全機能を傾けて、日曜学校の中にこれらの高校生を保持する挑戦に応じなければなりません。

高校科の組織

高校科の組織は特に重要です。なぜなら、効果的な計画によって私たちの努力を結集するときのみ、私たちはペンテコステの青年をしっかりと捕えることができます。後述の伝道の章に記されているように、統計は、少年たちが高校生になるまでに八人中七人が日曜学校から落ちていくという、がっかりするような事実を示しています。ですから時間であれ、金銭であれ、私たちが青少年に対して

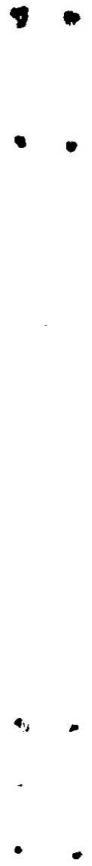
できる投資はそれなりの価値があるのです。私たちは「明日の希望」を私たちの中から逃がさないようにしなければなりません。

小規模の学校の組織

小さな日曜学校では、高校科の開校礼拝の部分は、大抵、若いおとなや成人科と一緒に、ある場合には全校と一緒に行われています。そして自分の教室に行ってから初めて、クラスが独自の機能を果たし始めます。男子、女子ともに同じグループにいます。このようなクラスでの教師の役割は科別に組織化された日曜学校の場合より、一層重要であります。なぜなら、クラスの成功も失敗も教師の能力にかかっているからです。

クラスの役員

委員長、副委員長、書記、会計の四役員がクラス全体によって選出されます。彼らは六か月、あるいは、その方がよければ一年間奉仕します。けれども、短い任期の方が、より多くの生徒にリーダーとしての能力開発の機会を提供することができます。考慮すべきもう一つの要因は、高校生の注意力持続期間はなお比較的短いということです。六か月たつと、役員全員の熱情がゼロに落ちてしまうかもしれま



せん。新しいリーダーができることにより、しばしばクラスにカンフル注射をすることになります。

資格 クラス役員は新生をした、献身的なキリスト者で、信頼性、忠実性があり、時間厳守をする人でなければなりません。候補者を指名する前に、教師はリーダーに必要なこれらの資質を強調すべきです。

義務 委員長はクラスのあらゆる集会を統轄し、クラスの活動の報告をし、教師を助けてクラス活動の立案をします。副委員長は委員長不在のときに彼の義務を遂行します。書記はクラス出席の正確な記録をとり、学校書記に提出します。会計は献金を集め、記録をし、それを学校会計に提出します。

委員会

クラスの全員が何かの委員に任命されるべきです。選出された四名のクラス役員から成る実行委員会は、それぞれが議長となってこれらの委員会の活動を指導します。委員会は一定の間隔で（たとえば毎学期）交代し、メンバーの変更をすべきです。

名簿委員会 これはクラス全体の中で最も重要な委員会です。なぜならそれは、ティーン・エイジャーたちにエネルギーのはけ口とともに、真の奉仕の機会を提供するからです。これは彼らにとって成人型伝道の最初の試みになるに違いありません。この委員会の活動は次のようなものを含みます。

一、それは新会員獲得と欠席者後続（フォロー・アップ）による伝道を推進すべきです。電話部隊は

日曜日の朝、眠りこけている高校生をふとんの中から目ざめさせるのに役立つでしょう。

二、それは「コンタクト（接触）・キャラバン」を行うことができます。一か月に一度、この委員会は教師（または成人のスポンサー（後援者））と一緒に集まり、分担をきめ、いくつかのグループに分かれて、欠席者や新しく来る可能性のある人たちを訪問しに出かけるべきです。一同は終わりの時間と、集合の場所をきめ（どこかの家が良い）、再び集まって、その晩の結果を報告し、茶菓をいただくようにすべきです。

親睦委員会 名称の示すとおり、この委員会はクラスの親睦活動の責任を持ちます。少なくとも一年に四回の親睦会（各学期に一回ずつ）を計画すべきです。

一回の親睦会は、ホテルやレストランでの晩餐会のような盛装の行事にすることもよいでしょう。この場合、特別な装飾、よいメニュー、興味深いプログラムなどともに、かなり早くから計画をしなければなりません。この種の親睦会をするには、いくつかの立派な理由があるのです。

一、高校生は若いおとなです。彼らはそのように自ら行動する機会を与えられる必要があります。特別な機会のために盛装するということは、高校生ならだれもが経験すべき体験なのです。

二、もし盛装の晩餐会が学校の卒業式の行事（あるいは進級式）と同じ頃に行われるように企画されるなら、私たちの青少年は自分たちの特別な催しを期待するようになり、卒業の経験が一層意義あるも

のとなることでしょう。

三、ティーン・エイジャーは、自分たちが学びとった礼儀や作法を、実践する機会を必要としています。人生の中の親睦的行事やパーティは全部が全部、低俗な、どたばた喜劇の種類のものではありません。今こそ彼らが、その状況に自分たちの行動を適応させる方法を学びとる時だと思われま

事業計画委員会 事業計画委員会の目的は、ティーン・エイジャー自身に、自分たちの教室または科に、自分たちが本当にそのクラスの一員であることを絶えず思い出させるような、具体的な物を加えるようにさせることです。ティーン・エイジャーによって取り上げられる事業計画には、次のようなものがあります。

一、厚地カーテンの取りつけ——お金を集め、布地を買い、仕立てる。

二、適切な絵または掲示板を購入する。

三、ペンキ塗り、または教室の設備の修理。

四、教会の掃除係が通常行っていること以外の、またはそれ以上の特別な清掃計画の実行。

大規模の学校の組織

十五歳から十七歳の高等学校の学生を少なくとも二クラス分（一クラス十人ないし十二人）持ってい

る日曜学校は当然、高校科を設けるべきです。このことは、高校生が別の設備を持ち、開会餐美から朝の礼拝集会の時間まで一つの単位として会合することを意味します。

グループ編成の方法は主としてその地域の状況によります。専門家たちは学級編成を性別によってすべきか、年齢別によってすべきかという点について、意見の一致を見ていません。この決定はその地域の必要に最も適合するように行われるべきです。

もし高校科に三十人ないし四十人の生徒がいるなら、合理的な学級編成は、十五歳の者を一クラス、十六歳の者を一クラス、さらに十七歳の者を一クラスというように年齢別にするものです。(訳注・日本では学年別以外に考えられないでしょう。)理想的なクラスは十人ないし十二人によって構成されたものです。もしあるクラスに同じ年齢の生徒が充分にいないなら、クラスの大きさをできるだけ同じにするように、ある種の調整をしなくてはならないでしょう。科がもっと大きい場合には、年齢と性別の両方による学級編成が必要になります。たとえば十五歳男子クラス、十五歳女子クラスというふうになります。ある学校では十七歳のクラスは男女共学のクラスに合併して、大きな効果があったと感じています。

この種の手引書にはある固定した、絶対に破れない規則というものは記されることがありません。各日曜学校はまず理想的機構を研究し、自分たちの地域の状況、人数、設備、教師などを考慮し、それから可能な限り、最善の配置を考えるようにしなければなりません。

科の役員

主任

副主任

書記・会計

ピアニスト

教師 教師の資格は第二章の中で詳細に示されています。どのクラスにも、その年齢の生徒にとって可能な限り最高の教師をつけるようにします。できるなら、女子のクラスには婦人の教師を、男子のクラスには男の教師をつけるようにします。混成クラスには男の教師の方が望ましいようです。

各クラスには助手の教師がおり、教師が欠席の場合、その代役を勤めるように準備しているべきです。多くの登録生徒数を持ち、多くの未来の教師たちを持っているある、日曜学校では、教えること教えないに関わらず、助手の教師は毎日曜日、必ずクラスに出席すべきことを要求しています。その主な利点は次のようなことです。(1)助手はクラスとなじみがなく、ぎこちなく教師の代役を果たそうと苦慮する必要がなくなる。(2)教師の目的が何であるかを直接知ることができ、知的な方法で代行を勤めることができる。

小さなクラスと同じように、高校科全体でも同じような委員会が活動すべきです。しかし、一つだけ追加するものがあります。それはプログラム委員会で、献身的なティーン・エイジャーが議長となり、科の主任の監督の下で、変化に富み、ティーン・エイジャーにアピールすることを念頭に置きながら、科の開校集会の計画を立案するのです。

質 問

- 一、高校科の主要な関心事は何ですか？
- 二、なぜ日曜学校は青年たちの発達のために、より多くの責任をとらなければならないようになっていくのですか？ 二つの理由をあげなさい。
- 三、なぜ高校科は教会にとって重要、不可欠のですか？
- 四、小規模の学校の役員の名前をあげなさい。
- 五、各委員会の機能を簡単に要約しなさい。
- 六、高校科の役員の名前をあげなさい。

第二章 高校科教師の位置づけ

教師の資格

青年たちの教師として必要な能力と資格を持っていたらよかったのにと、いつも考えている人々に申します。勇気を出しなさい。単なる願いだだけで、事は成就しませんが、願いを持つ時に、事は半分成就したのです。ティーン・エイジャーに興味を持ち、教えるという働きに本当に精を出してぶつかりたいとあなたが願うなら、(もちろん、日曜学校教師としての他の条件に合致するならですが)あなたは成功します。ときどき私たちは、新しい計画の最初の部分で、ものすごく熱心な人たちに相遇いたします。何か新しい、今までと違う事をするという考えが彼らを興奮させるのです。しかし、目新しさという上への飾りが消えていき、本当の働きに直面すると、彼らの熱情は焼けつき、興味の燃えさしの残り火は、いくらかき立ててもその働きを完成させることができないうような、弱々しいものになってしまいます。高校科の教師になろうとする者は、毎日、毎日、毎日、毎日、毎月、毎月、働き続ける意志が

なければなりません。

しかし、高校科の教師を選択するとき、考慮しなければならない非常に重要な要素がほかにいくつかあります。

霊的資格

第一に、**霊的な要素**があります。高校科教師は霊的な人物でなければなりません。霊的であることは霊的な格好をすることではありません。その人の霊的生活は生徒たちに魅力的であり、慕わしいものでなければなりません。これがある賢明な人は、このように定義づけました。「霊的な人物はキリスト中心であり、神の支配を受け、他人意識を持つ人です。」キリスト中心の人物で、聖霊の導きを快く受け入れ、他の人々の必要を意識している人なら、高校科教師の霊的条件を十分に満たすことができます。彼はまた、自分の生徒たちを霊的な真理と体験に導き入れることができなければなりません。導くに強調点が置かれていることを注意して下さい。教師は自分自身の領域を越えた霊的体験に、生徒たちを押し込むことができると思っているはいけません。ですから教師が新生をしたキリスト者であることが重要であるだけでなく、同様に聖霊の満たしをも受けていなければなりません。ティーン・エイジャーたちはすぐに、にせものを見つけ出してしまいますから、教師の生活そのものが、教師が毎日聖書朗読と祈

りに時間をとっていることを証明し、彼のキリスト者経験が過去のものでなく、現在の事実となっていないければなりません。

肉体的資格

高校科教師の選択においては肉体的な要素が重要な役割を果たします。容貌、人格、個人的功績などは青年にとって非常に重要なのです。特別な髪型、靴のスタイル、洋服の流行などが絶えずティーン・エイジャーの世界で問題にされていますが（親をうるたえさせ、業者を満足させながら）、これもある現代的な彼らのアイドルに対する感嘆の気持ちを反映しているのです。男の子たちは注意深い身づくり（もちろん、だれかほかの人の）に感嘆し、女の子たちは、女の子ですから、きれいな洋服を好みます。これは、流行を追っていなければ教師としての資格がないという意味ではありません。それはただ、成長しつつある将来有望な子供たちには、新進気鋭の教師たちが必要であるということを描いているのです。大抵の現代の高校生は、自分たちのアルバイトか、あるいは、一生懸命働き、自己犠牲を払ってくれる両親のおかげで、最新の、最高の衣服を着ています。明らかに高校科教師は生徒たちの個人的な称賛を得なければなりません。基本的な細かいこと（きれいに手入れをした爪、よくとかした髪、清潔さ）によく注意を払い、流行の先端でなく、基本的な、適切な衣服にかしこくお金を使う教師

は、金遣いの荒い、流行を追った衣服を着ている人たちよりも「ベスト・ドレッサー」の表の中で、実際に高く採点されるのです。

自分の姿に細かく気を使う女性教師は、無頓着に衣服を着て、好ましくない洋服を大声で非難攻撃するリーダーよりも、慎しみ深さとよい趣味こそ最も適切であることを自分の女子生徒に、模範によって教えることに成功しています。賢明な教師は容貌によって、甘美で、総明な、魅力的な人物であることを描き出すだけでなく、その行動によっても描写するのです。行動について言うなら、よい行儀、よい態度はキリスト教の一部分なのです。真のキリスト者は紳士であり、真のキリスト者婦人は礼儀正しく、マナーのよい、そしていつも親切な人であります。

男性の教師は、機械工であれ、事務員であれ、注意深く身づくろいをする必要などないと思っはけません。定期的に散髪することは必須です。衣服はクリーニングをし、アイロンのかかったもので、靴はよく磨いておくべきです。香水の宣伝が無制限に行われている今日の時代において、自分自身の清潔について無知であるなら、話になりません。よい模範を示そうと思うなら、肉体の細部にまで注意を払わなければなりません。ティーン・エイジャーたちは、おとなの世界での彼らの成功の多くは、実業界、教育界、あるいは伝道界であっても、主として個人的な身づくろいによるということを、間もなく（もしまだ学びとっているのであれば）学びとることになります。

肉体的な面について、私たちペンテコステ人が認識しなければならぬ一つの要素があります。服装の標準が過去三、四十年の間にどこでも徹底的に変わりました。当時は、私たちの教団の標準が受け入れられていましたが、この国の経済状態が今日とは全く異なっていました。近年の繁栄経済は非常に多くの非生活必需品を提供することになりました。それゆえ、今日のアメリカでは、どこでも衣類やアクセサリーに対する出費が増大しています。大きな産業や、文化的、教育的、さらに社会的状態までがアメリカ人の基本的な人格を変革してしまいました。これらの変化を見るときに、もし私たちが賢くあって青年たちを教えていかなければ、彼らに対してより大きな問題を造り出していく、重大な危険性があることに気づきます。キリスト者の行動に関しては、だれも反論のできない、基本的な原則があります。もし私たちがこれらの原則を若い人たちに強調していくならば、彼らはキリスト者生活に対する指針を持つことになります。私たちは彼らに実際のな、日常的な事からの中に、神のみこころを求めていく必要を感じるようにさせていかなければなりません。聖さ（ホーリネス）は法律によって制定できるものではありません。それは心の問題です。

賢明な教師はティーン・エイジャーのために物ごとを正しく位置づけ、混乱を解消するのを助けます。どのように衣服を着るか（どのようにすべきでない、ではなく）を教えることも助けになることでしょう。ときどき若者たちはこういう保守的な考えとは全く関係ないと決めて、反抗的に他の極端に走

ります。教育が欠けているために、彼らはよい趣味と慎しみ深さという原則に支配されずに、流行の先端を行く衣服を着、異様な格好をします。女の子たちは、ほとんど何も身につけていない裸同然の格好や、極端にからだに密着した衣服は悪趣味であることを認識する必要があります。男の子たちも、いやな感じの衣類の着方をするなら、いやな感じの人間と見なされるということをやばなければなりません。高校科の教師には、服装に関する慎しみ深さとよい趣味についてだけでなく、きちんとしていることと清潔さについても（これは古い格言によれば敬虔さにつながる）強調できる、またとない機会が与えられているのです。

知的資格

私たちが大学に行くまで習わなかったような言葉を五歳の子供が口にする、この発達した現代において、高校科の教師は時勢に遅れないだけの知的機敏さを持つていなければなりません。

現代的生活の錯綜と複雑さを認識しなければなりません。これはティーン・エイジャーたちが困惑しながら直面しているものです。そして彼らはもう間もなく、全く自分だけでおとなの世界に飛び込んで行かなければならないのです。十代での結婚、簡単な離婚、正直さ・率直さ・美徳などの衰退（高い所での価格不正操作、汚職、収賄などによって証明された）などは私たちの時代のしるしであり、また青

年たちにとっては困惑の種であります。ですから彼らは「私の言うことを行い、私のすることはしてはならない」という人生哲学にすぐに気がつくのです。最後に、カクテル・パーティーや、メントール入りのたばこ、ますます多くなる睡眠薬や麻薬らんちきパーティーなども、今日の青年たちが直面している現実の問題です。

高校科の教師は生徒の必要に、理性的にも知的にも応じる能力がなければなりません。質問は知的に答えられなければならないし、答えは個人的な偏見でなく、神のみことばに根ざしたものでなければなりません。

教師は聖書に通じているだけでなく、聖書地理、コンコルドダンス（聖書語句辞典）、聖書辞典、注解書などをすぐ利用できなければなりません。教師は教会や公立の図書館と親しい関係を持つただけでなく、自分自身の資料図書室を持つように努力すべきです。注意深い教師は資料を、新聞、雑誌、書籍など、どこにでも見つけることができます。まじめで、勤勉な若者たちに関する感動的な話を採すことにより（ある新聞は週末版にそのような特集をしている）、教師は現代的ティーン・エイジャーの考えに對して洞察を得ることができません。

もし教師が自分の訓練が不十分だと感じるなら、聖書教理や、教授法に関する聖書通信講座が大いに役立つでしょう。

毎月行われる、日曜学校の奉仕者全員に対する訓練講座は、日曜学校の円滑な運営に有益です。教師はここで知的にも霊的にも光を与えられ、さらに励ましをも受けるのですから、欠席せずに毎回出席することが必要です。さらに加えて、教師は毎年、教会で開催される奉仕者訓練講座を利用すべきです。そこで行われる授業は、新しい方法に関する情報を提供し、また日曜学校を教えることによって得る挑戦を、新しく強調してくれるのです。

青年たちに対する特別な愛

霊的・肉体的・知的要素は非常に重要なものですが、さらにもう一つ、資格を与える要素があります。それは、それ自体、多く分岐した内容を持つものですが、ティーン・エイジャーに対する特別な愛です。この愛があるときに、教師はティーン・エイジャーたち独特の言葉をす早くキャッチし、ポイントを説明するのに時おり使うように努力したりするものです。(しかし、彼らの言葉の使い過ぎは逆の反応を呼び起こします。ティーン・エイジャーたちは、あまり一生懸命彼らのまねをしようとするおとなには、すぐに反抗するからです。)

愛は、教師がある日曜日の**明らかな失敗**を冷静に受けとめるのを助けてくれます。それは生徒たちのあの不思議な顔のかけには**機敏な、感受性の強い心**が隠されているのであり、次の日曜日の学課はもつです。と**明らかな成功**を得るだろうということを、確信させることができます。愛こそ、成功した、喜ばしい一回の日曜日のゆえに、他の日曜日をみな価値あるものと見なし、一人の生徒の速やかな反応こそ、他の十人の始末におえない生徒たちによる**重圧を補って余りある**、と考えさせてくれるものなのです。

愛は性格を開く正しいかぎさえ見つければ、「**だめな子供**」はいないということを教えてくれます。愛こそ、そのかぎ、「**憎しみに対する最善の中和剤**」なのです。

厳粛なことが問題になっているのに、クラス全体が陽気に騒いでいるなら、当然怒りを徐々に燃やしたくなるにも関わらず、教師を温厚に保ち続けるのは青年たちへの愛であります。

この特別な愛は**現われる**ものです。それはすぐに見分けがつくものですから、ティーン・エイジャーは心の秘密を打ち明ける友、あるいはカウンセラーを必要とするとき、ためらわずにその教師を求めるようになります。その信頼は絶対に裏切ってはなりません。

質 問

- 一、霊的な人についての定義はどういうものですか？
- 二、なぜ教師の肉体的な容貌が重要なのですか？

- 三、どんな問題が、現代のティーン・エイジャーに直面していますか？
- 四、教師はどこに、生徒の問題を解決する助けを見いだすことができますか？
- 五、おとなはどのようにして、青年たちに対する愛を示すことができますか？

第三章 高校生の特徴

青年期の特徴

ティーン・エイジャーの親たちは青年期の定義を、かなり早くから、苦い経験を通して作りあげました。ある人はそれを「矛盾の塊」と描写し、別の人は「狂気の一時的形態」であると確信しています。しかし、どのような用語が用いられたにしても、青年期は複雑で、混乱し、気まぐれであるが、しかし愛すべき人間の複製版であるということに、ほとんどの人は同意するでしょう。

高校科の教師は青年の行動に対する洞察を少しでも得るなら、多くの益を得ることができます。なぜなら、ティーン・エイジャーのクラスに対する自分のアプローチの仕方が「うまくいく」か、不発に終わるかをあらかじめ知っておくことは有利だからです。実際には、二人として同じようなティーン・エイジャーはいないのです。あるいは、典型的なティーン・エイジャーなどというものも存在しないのです。しかしながら、自分に委託された若者たちに対する自分自身の態度を決めようと努力している高校

科の教師にとって、青年期の心理学的な態度や形式を少し掘り下げてみることは有益でありましょう。

自立的

青年期と反抗はほとんど同義語です。幼児期にはすべてのおとなが叱るか、つつ突くか、命令するか、何らかの形でこうしなさいと言ったものですが、ティーン・エイジャーはその幼児期の依存性から抜け出すところなのです。そしておとなの自立に向かって進むところですから、あらゆる種類の権威に對して憤慨を覚えます。自分自身で決断をしたくなります。ちょうど甘やかされたちびのようなことをしている時でさえ、彼はすぐに「もうおれは子供じゃないぞ」となります。彼は独立を望んでいるのです。けれども同時に、責任をとることについては恐れているのです。高等学校の学生なら、甘やかされる年齢はとうに過ぎてはいるはずですが、このかたくなさを認めながら、おとなとしての行動を断固要求する高校科の教師は、毎日曜日、彼と顔を合わせる、すました若いおとなたちを見て嬉しく感じることでしょう。

模倣的

青年たちは自分たちがなりたいたいと思う人物像をはっきりと頭の中で描いています。自分の理想の人は



一人の人物を型どったものではなく、自分の尊敬する多くの人、たとえば両親、おとなの友人、教師、あるいは全国的に有名な人物などの合成かもしれないかもしれませんが、彼はどんな人になりたいか、よくわかっています。高校科の教師はみずから真のキリスト者紳士、婦人となって、彼らのこの傾向を充分に利用すべきです。偉大なキリスト者の伝記を掘り下げてみるべきです。現代の秀れた人物の生涯にあった固有の経験を順を追って調べることも非常に効果があると思われれます。

公明正大な態度への賛美

青年期には強い正義感があります。おとなによって不公平な問題の処理が行われたりするならば、徹底的な義憤を引き起こすことになります。それは人生のこの段階においては、非常に敏感で、その点、少し行き過ぎる面さえあります。言うまでもなく、教師は微妙な問題を取り扱うときにはソロモンの知恵を持たなければなりません。

言行不一致

青年たちは両親が厳しすぎると不平を言うかもしれませんが、心の奥底では、もっと厳しければよいと願っています。彼らはおとなの保守的な考えに同調することに対し、反抗しますが、こと自分たちの

仲間の衣服や行動に関しては徹底的な同調者なのです。

ロマンチック

もう女の子たちは男の子は害虫だなどとは考えないし、男の子も女の子をいくじなしとは考えません。これも幼児期とともに過去のものとなってしまいました。その代わり今や、異性に対する重要な相互的関心が生まれてくるのに気づきます。これは当然なことです。高校時代における、デートやお互いに知り合う過程が生涯の伴侶の選択に影響を与えるでしょう。高校科の教師はもし自分の生徒に対して責任を果たそうとするなら、ものすごく大きな仕事に直面していることに気づきます。この年齢こそ、デートや交際、性や結婚についてのキリスト教原理について、率直で、開放的な話し合いをする必要があるのです。

知的

青年期の後期では、商売の方法、家族関係、世界的問題など、おとなの事がらに関心を持ち始めます。日曜学校で行う人格形成訓練も、彼らがこのおとなの世界に適合できるように、おとなの問題に対処できるように、そして世界の事件と自分との関係が理解できるように連動させるべきです。

集団的

青年は行動を、しかも多くの行動を必要とします。何かを行い、助け、完成することが必要です。何か特別な計画、特に同じ年齢の友だちとの交わりを提供するものが必要です。高校科は、いや実際には教会全体の青年プログラムは、ティーン・エイジャーたちの社交的傾向と高出力のエネルギーを利用するように連動させるべきです。

肉体的変化による影響

青年期は、変転きわまらない外部的問題と対処しなければならぬだけでなく、自分の体内での変転きわまらない内分泌の進行とも対処しなければなりません。物質代謝とエネルギーには変化が起きます。そして自分の複雑な外見とぶざまさに悩まされます。このことによって彼らは苦しみ、その悔しさを覆うためにおどけたりしてみるのです。

彼らの感情の振り子は、こちらの端からあちらの端へ、最高のうきうきした気分から、悲胆のどん底へと派手にゆれ動きます。ある日には大きな、他意のない笑顔を見せるかと思えば、次の日には、悪意に満ち、怒りに満ちた凝視に変わるとしても驚いてはいけません。青年たちは思慮深い、礼儀正しい、若いおとなとして行動する日がありますが、そのあとには、生意気な、非協力的ながぎのように行動す

る時もあります。賢明な教師はその都度、適切な柔軟な態度をとることを学んでいくべきです。そして子供たちが外面的にも内面的にも成長するには、時間がかかることを認識すべきです。また、いつも手許に、感情移入と同情の無限の供給源を持っていなければなりません。自分たちの日曜学校の教師を、真に理解してくれる友として知った青年たちは、人生の多くの災難を容易に乗り越えていくに違いありません。

高校生の発達の限度

無限の可能性

この瞬間においても彼らは一生継続く、具体的な価値観を発達させています。ですから彼らの考えを正しい方向に向かうよう、方向づけなければなりません。三十八年間、YMCAの献身的な奉仕者だったクレアレンス・G・モーザーは、それをこう表現しています。「価値体系の構築は生きることの正常な部分である。」ティーン・エイジャーたちは物ごとの関係を見だし、さまざまな事から、他の人々、神との関連における自分自身の価値設定をするという課題に直面しているのです。

しかし、ティーン・エイジャーたちは、この仕事が目倒れでむずかしいことに気がつきます。というのは目標が混乱しているからです。彼らは、説教をしながら実践しないおとなの世界に住んでいます。彼らは物質的な事は成功の真のはかりではないと教えられます。しかしながら、隣りのだれかさんに遅れをとるなどということが、明らかに奨励されているのです。彼らは「人間みな兄弟」ということを信じ、すべての人は平等に造られている、ということを感じるように吹き込まれています。しかし、毎日のでき事は、狭量な偏見と「人間に対する人間の非人間性」を宣言しています。彼らは正直が賛美されるのを聞いてきました。それなのに贈賄の醜聞、価格の不正操作、大学の欺瞞というような爆撃を受けるのです。彼らは盗んではならないと教えられます。しかし、おとなたちは会社で仕事をさぼり、貴重な時間を盗むことを何とも思っていないことをよく知っています。結婚前の性的禁欲が説かれています。しかし、新聞、雑誌、テレビなどは逆の事実を叫んでいます。要約すれば、彼らはおとなの世界を偽善者的世界として見ているのです。賢明で機敏な、事態をはっきりわきまえている教師たちこそ、彼らの目を周囲の混乱から引き離し、キリスト者生活を生きる美しさを吹き込むことができるのです。

宗教的信仰に対する生来的必要

「少年を理解する」の著者、クレアレンス・G・モーザーはこう記しています。

「彼らは自分がより頼むことのできる、そしてその周辺に自分の生活をまとめることのできる、ある

種の信仰を持たなければならぬ。宗教はこの中心核を提供する。……それは彼らの理想的な自己の型式を提供する。彼らがそれを達成できなくても、彼らが何でも理解し、赦して下さる神を理解するとき、それは彼らを支えてくれるのである。」

「少女を理解する」の中で、同じ著者はこう記しています。

「健全な精神衛生の基本は、まじめに自己と直面することである。彼女たちが直面する傷こそ、彼女たちをいやす真理となる。涙は彼女たちの完べきな標準を洗い去る。そして彼女たちはついに、たとい自分たちがどんな長所、短所を持っていたとしても、あるがままの自己を受け入れるところに到達しなければならぬ。宗教における健全な訓練は、現実へのこの転換を理解させる力となる。ここで彼女たちは、話を聞いてくれ、心にかけてくれ、しかも不可能な事は期待しない、一人の友を見いだすのである。彼女たちは彼に自分たちの心を注ぎ出し、自分自身と世界における自分の位置についての新しい考えを持って、立ち上がることができる。そのとき彼女たちは責任をとることができ、他の人々と正常な関係を持つことができるようになる。なぜなら、彼女たちは自己を受け入れることを発見したからである。」

ですから青年たちは、友であるキリストに問題を打ち明けるときに、悲しみに対する慰めを、混乱の中で確信を、困惑のただ中で平安を見いだすことができるのです。

目標を選択し、計画を立案し、実行する能力

青年たちは職業の選択をしなければなりません。そこで彼らは大学の専門課程を考え、自分たちの計画や夢を実現するために必要な手段を構じていきます。この時期においても生涯の伴侶の選択は進行中です。

社会問題や世界情勢への意識

青年たちは、これらの事を挑戦的に受けとめます。そして、おとなや同じ年齢の者たちと討論するのを好みます。

論理的に思考する能力

青年たちは、大抵の場合、問題の両面を見ることができません。

質 問

- 一、青年の特徴を知ることとは、どのように高校科教師の助けとなりますか？
- 二、青年期の特徴を少なくとも五つあげなさい。

- 三、青年たちの肉体的変化はどのような影響を彼らに与えますか？
- 四、一連の価値観の構築はなぜ彼らにとって、そんなにむずかしいのですか？
- 五、ティーン・エイジャーたちがキリストを友として知る必要を説明しなさい。

第四章 高校生の文化的背景

前の章で私たちは一般的な青年期の特徴と態度を取り扱いました。この章では、青年たちを個人的に知る重要性を取り扱ってまいりましょう。

二つとして同じ家庭はありません。教育的・社会的・文化的・宗教的相違が各家庭の価値観の形成に寄与しています。ある人は学問的業績を強く強調しますが、ある人は標準的教育を受けずに成功したことを自慢します。ある家族は社会的地位や、メイフラワーに乗って来た先祖のことでスポットライトをあびることを心地よく思う一方、ある人たちはただの人であることを誇りとしています。ある家族は芸術、音楽、古典という、人生の文化的面を強調します。ある家庭の深い宗教的ルーツは何世代も前にかのぼりますが、ある人たちは教会のことは何一つ知りません。

高校科の教師はこれらの基本的相違を認識しなければなりません。なぜなら、青年たちは不可避免的に彼らの家庭環境の産物だからです。彼らは常にその家庭態度を反映するのです。

高校科の生徒の背景は、それが生徒たちの行動の背後にある、動機づけとなる要因を現わすことにおいてのみ重要です。家庭背景は社会的根拠に対して重要では**ありません**。高校科はある社会階層からのみ、ある**タイプ**のティーン・エイジャーたちを集めるようなことはしませんし、すべきではありません。神はエリートだけを捕えることを奨励してはいませんし、最低の階層の人々を捕えたからと言って私たちの功績にはなりません。神は人を片寄って見ません。全国一の紙上人生相談の筆者であるアン・ランダースは、「問題には地域差も、社会的地位の差もない」と言っています。彼女の年間の切手代は二万五千ドル（訳注・約五百万円）で、そのことは人生のあらゆる階層の人、あらゆる社会的階級の人がだれかからの助けを必要とし、求めているということの無言の証言なのです。高校科の教師はそのだれかになることができるのです。けれどももし、生徒の背景について適切な知識を持たずに教えようとするなら、それは最も原始的な道具を用いて畑を耕作しようとする農夫のように不利な状態になるのです。

知識が教師を助ける方法

一、教師は自分の教材を生徒の必要に合致するように適用することができます。毎日曜日、教師と顔を合わせる生徒たちは、その教えに対して、自分たちの家庭背景を土台として反応するということを教師は忘れてはなりません。

二、教師は家族を知ることによってその生徒を助けることができます。もし教師が家族状況に無関心ならば、深く考えずに、知らないうちに、取り返しがつかないほど、彼と生徒の間に障壁を作り、生徒が指導と相談を求めようとするのを邪魔することになります。

三、教師は学課の例話を注意深く選択することにより、生徒を公の面前で傷つけたり、恥をかかせたりするのを避けることができます。けれども、これは注意を払うことによるのみ可能なことです。もし、たまたま、例話がある生徒の家庭状況に当てはまる場合、生徒に不必要な当惑を**させるか**、それを**避けるか**は教師の態度にかかっています。たとえば、教師が貧乏について話す場合、ばかにしたような、氣どった態度で話すこともできますし、ジムが経済的に恵まれていない家庭から来ていることを承知の上で、同情と親切な態度をもって扱うこともできます。ジムはたとい自分は貧乏であっても、何と**いうこと**はない**ということ**を再確認することができるのです。そして先生はわかっている**と**考**え**ることが**できる**のです。

家庭背景の相違

教育的背景

ある親たちは、学問的業績のみが価値あるものだと思っています。彼らは自分の子供たちをよい成績と最高の職業へ押し上げるようにします。彼らは霊的な成長はなりゆきにまかせて満足しています。そういう子供たちは大抵頭がよく、積極的で、野心家です。教師はこの事実を覚えておくべきです。

別の親たちは「頭だけの知識」には用がないと言います。彼らは恐ろしいほど所有欲が強いのです。彼らは子供たちがあまり立派になって、この親には「もったいない」などと考えるようになることを恐れています。このような家庭の態度が中途退学の問題を助成しています。なぜなら、ある生徒にとっては法律さえ許すなら、中途退学をすることは願ってもないことだからです。

社会的背景

自分の子供たちが、社会的に最高のものと評価されることを一番熱望している親たちがおります。彼らは自分の子供たちがだれかに負けることが嫌いで、不用意にも子供たちの霊的状态を危険にさらしながら、流行（今日行われている事がら）に乗らせようとしています。ある親たちは教会を変えたりします。

それは自分の娘が美人コンテストに選ばれるときに、宗教的な関係が障害になるのではないかと心配だからです。

社会的シーソーのもう一方には、社交的儀礼をにらみつけ、よい身づくろいは「見せかけ」と考え、自分たちの劣等感を、絶えず自己弁護の形で発表する親たちがいます。この態度はすぐに子供たちに伝わります。賢明な教師は、親の極端な矛盾からは決してよい結果が生まれないことを知っています。教師は模範と、気がつかないような指導によって、物ごとの他の一面を見ることができるよう影響を与えていかなければなりません。

宗教的背景

宗教的傾向の強い家庭にも種々の異なった態度があります。日曜礼拝家族というのがあります。彼らは宗教的な事には上べだけの力点を置きますが、彼らの霊的体験は非常に浅薄で、宗教的信念は家庭生活を全然変えないか、あるいはごくわずかしか変えています。「非行問題の十五の原因」（週刊ファミリー）（家族）一九五九年三月十五日号）の中で、巡回判事ジェイコップ・M・ブロードは、これが少年非行問題の主要原因であると強調しました。「一週間に一度教会に行くことは必ずしも宗教的訓練を形成しない。宗教……とは生きているもので、生命に関わるものである。それは若者たちの生きた哲学

の一部分でなければならぬ。この形においてのみ、それは少年非行問題に対して強力な抑止効果を發揮することができるのである。」

ある生徒たちは教会に対してよい感情を持っていないかもしれない。それはお父さんやお母さんが教会関係の活動で忙しくしており、忙しいために子供たちと一緒に過ごす時間がほとんどないからです。このような家庭から、牧師の子とか役員のがきとか言われる、悪い評判を立てる子供たちが出てくるのです。こういう生徒たちは大抵、最も手に負えない、扱いにくい連中です。

しかしながら、お父さんやお母さんが真のキリスト者生活を模範によって教えている、まことに祝福された家庭もあります。落着きと神の平安がその家庭の雰囲気の一部になっていきます。教会の経済的重荷を不平を言うことなく背負い、牧師や執事たちの悪口を食事のときのおかずにしたりしません。キリスト者生活をこういう方法（応用キリスト教の模範例）によって学びとるティーン・エイジャーたちは、幸運なティーン・エイジャーたちです。このような家庭から来る生徒を何人か持っている教師は、日曜日の朝、彼らから靈感を与えられますから、本当に幸いです。

日曜学校に來ているある生徒たちの親は無関心です。彼らは子供たちが教会に來ること自体には満足していますが、自分たちが自身が出席することには関心がありません。ティーン・エイジャーの靈的問題は自発的に解決するようにまかされています。しばしばこのような青年たちは、友人にさそわれて來る

のです。仲間はずれにされたくないからです。当然ながら、この生徒の出席は不規則で、たまにしか來ません。なぜなら、だれも彼を寢床から引き出そうという気持ちがないからです。この若者は教師に対して本当の挑戦を提供しています。この生徒が靈的な光を受けるかどうかは一切教師の責任です。両親の教えがキリスト教真理を打ち込むことなどは期待できません。このような状況の中で力の不足を感じる教師は、生徒のためにとりなしの祈りをせざるを得なくなります。（教師は日曜日、日曜学校の時間に合うように迎えに行くことを申し出ることにより、その生徒が忠実に出席するのを助けることができます。）

無関心な親とてよいものではありません。ましてティーン・エイジャーたちが親の反対を振り切って教会に來なければならぬというのは、本当に悲劇です。このような生徒に対しては、教師が真の助けと靈感の源にならなければなりません。これはそんなにむずかしいことではありません。なぜなら両親の願いに反して教会に來るといふ若者は、生きた宗教体験を持っているに違いないからです。

以上は生徒たちが分類される分類のごく一部分です。もちろん、このほかにもあるでしょう。離婚した家庭、酔っ払いの父親、道徳的に破綻した両親などがおります。大家族から來ている子供、小家族から來ている子供たちがいます。非常に注意深く訓練を受け、機会に恵まれている一人っ子もおりますし、また、甘やかされ、耽溺している一人っ子もいます。彼らを知ることこそ、彼らを助けるかぎなの

です。

教師は生徒たちに、この世の中で最高の生活——キリスト者の生活——をしたいという願いを起こすように関心と呼び起こさなければなりません。生徒たちは自分でそれを願わなければなりません。お母さんがキリスト者になってほしいと言うからではなく、そうすれば教師が喜ぶからでもありません。したがって、彼らが自分でそれを選択するのですから、彼らは堅固なキリスト者経験をすることになるでしょう。

質 問

- 一、教師が生徒たちの背景を知ることにはなぜ重要ですか？
- 二、家庭背景の中で教育的相違とはどんなものですか？ 社会的相違は？ 宗教的相違は？
- 三、生徒の霊的経験が健全で、永続するものであるかどうかを決定するのは何ですか？

第五章 高校科教師の学科の準備

どんな事業においても、成功の基本的構成要素は自信です。数多くの、むずかしい、さまざまなか公式義務を完べきに行っていく、イギリス女王の堂々とした姿勢を見てうらやましく思わない女性がいるでしょうか。また、洗練された外交官が最も危機的状況を取り扱っていくときの泰然自若とした姿を感嘆し、あるいは、ひそかに我がものにしたいと願わない男性はいないでしょう。このような公人の完べきな行為は、自信に根ざしたもののなのです。その自信は適切で、厳しい、徹底した準備から生まれてきます。

この章では教師であるあなた方に直接話しかけることにいたします。あなたの成功に至る公式も自信に根ざしたもののなのです。緊張している教師は効果的な教師ではありません。なぜならあなたが不安で固くなっているときには、生徒たちがそのことに気づいているからです。あなたが学課を完全に覚え、必要の二倍ほどの材料や資料を持ち、どんな状況でも扱うことができる備えをもって、自信をもってクラスの前に立つときほど、大きな満足を感じることはないでしょう。あなたは学課の歴史的・地理的背景を知っているでしょう。そして必要なら、その地域の大体の地図を書くことさえできるでしょう。あ

なたはまた、生徒たちが何を必要としているか、この学課から何を学ぶべきかということも知っています。それなら、よい教師は、この確信を毎日曜日感じるべきなのです。

自信を持つかぎ、準備

学課の準備とは、ある週は大成功で、次の週は不相当というような、当たりはずれのあるものではありません。準備は首尾一貫して、秩序正しく行われなければなりません。あなたの日曜学校の学課は、あなたが過ごしたばかりの先週の一週間の姿（たとい忙しいスケジュールであろうとなかろうと）を反映するものであってはなりません。効果的な教師であるなら、あなたは必ず、十分な時間と祈りをもって学課を準備することと思います。

祈り深い、実際の準備

祈り深い準備

毎日曜日の学課のために、また一人一人の生徒のために規則正しく、また心をこめて祈らない教師は教師の責任を引き受ける資格がありません。日々の祈りは成功した授業を行うためのかぎです。それはよく勉強をした学課にさらに最高の祝福を加えるものです。それはあなたの頭の中に真理を接着し、それを生徒に伝達するのを助けてくれます。あなたがもし落胆し、力不足を感じ、不適切であることを感じるなら、祈りはあなたの勇気を支え、あなたにもっと自信を与えてくれるでしょう。

祈りは教師であるあなたに、生徒の隠れた悩みや、秘密の願いを感じとる敏感な感受性を与えてくれます。悩みや願いを発見した場合、祈りはその生徒を助けるために必要な暖い接触をも可能にしてくれます。

学課自体に対する祈り

学課について考える際に、聖霊があなたの頭脳に光を与えて下さるよう祈りなさい。聖霊はあなたが長い間忘れていた考えや、詩、例話などを思い出させて下さいます。学課の中心目標の選択に当たり、学課へのアプローチの仕方を選ぶに当たり、知恵を求めて祈りなさい。最後に、クラスの中で出されるむずかしい質問に答える場合に、導きを求めて祈りなさい。

いつ祈るか。「でも私には、一人一人のために祈る時間がありません」とあなたは反駁するでしょう。では、日常のきまりきったことを行うときの、頭が空白になっている時はどうでしょう。信号が青になるのを待って、車の中でいらいらしている時はどうですか。そういう瞬間に、先週のディックのつまらなそうな顔や、スージーのニコニコした姿に祈りを集中することは、有益な時間の使い方ではないでしょうか。

どのように祈るか。一人一人を思い出しなさい。教室でああなたの前にすわる生徒を思い出し、それからその生徒のために祈るのです。彼の行っている学校のことや、彼の興味を感じている事などを考えなさい。ジェーンがああなたに、友人にあかしができないと言っていたなら、彼女がその日必要としている勇気が与えられるよう明確に祈りなさい。祈りに代わるものは**何もありません**。

なぜ祈るか。襲いそうな誘惑や、欠点を考えながら一人一人の生徒のために一度祈ったなら、その生徒はあなたの心と関心の中で特別な存在になるでしょう。むずかしい生徒のために祈ることはその生徒を理解することに役立ちます。あなたは、彼の問題に対する洞察が与えられます。ひとたび、抑圧された、つまらなそうな生徒を励まし、確信と幸福への道を歩み始めさせることができたなら、あなたは彼の幸福そうな表情を見ただけで報いを得、それ以上の何ものをも必要としないでしょう。

自分自身のための祈り

あなたは真に効果的な日曜学校教師になることを、いつも夢見てきましたか。それはあなたがいつも好んで大切にしているお気に入りの夢であって、実現するのを疑っているものではないのですか。上院付属牧師ピーター・マーシャルの未亡人で、「ピーターという名の男」の著者であるキャサリン・マーシャル夫人は「私たち自身のかなた」という秀れた書物を書きました。キリスト者ならだれでも、この書物を感じ動的、挑戦的だと感じるでしょう。「夢を実現させる祈り」という心引きつけられる一つの章の中で、彼女は建設的な白日夢と祈りの間に明白な関係があることを暗示しています。彼女は読者に少しばかり自己分析をするように訴え、こう言っています。「私は自分自身にどのような能力を願ったのだろうか。……上品なユーモアの感覚？ 公衆の前で話をする能力？ 社交上の優雅さ？ どのような事から？ どのような財産を私は願ったのだろうか？……どのような種類の友だち？」

私たちはこれに「私は効果的な日曜学校教師になりたいと思っっているだろうか？」と加えることができます。では私たちは、自分たちの夢を実現するためにはどうしたらよいのでしょうか。マーシャル夫人はそれについて祈ることを提案しています。

「祈ることは、心に描くという形態をとる。それは詳細に夢を見ることである。イエスは、しばしば人々に、ただ求めるだけでなく、自分たちの願っていることに対して明確な態度をとるように要求さ

れた。『イエスよ、私をあわれんで下さい。あわれんで下さい』とイエスを呼び続けている盲人がいた。その人の一番の問題（盲目）はキリストに明らかだった。しかし、彼は『あなたは私に何をしてもらいたいのか』と誘導尋問をして、その人に自分の願いを明確にするように求められた。』
ですから、私たちの教師の夢も明確な祈りを通して実現するのです。私たちは神に願うことを求めなければならぬのです。

もしあなたの夢がよい日曜学校の教師になることなら、その夢が実現するような祈りを祈りなさい。真に効果的な教師にして下さい、と神に求めなさい。心を注ぎ出して願いなさい。「できたらいいのですか……」という中途半端なものでなく、「主よ、私は本当に効果的な教師になりたいのです。どうか、生徒たちにあなただを現実の方として示せるような方法で教えることができるようにして下さい。あなたのみこころが私の生活や、このティーン・エイジャーたちの生活の中で成就いたしますように」と確固としたものにすべきです。

実際の準備

首尾一貫した研究 ちょうど肉体が規則的な食事の習慣に自ら調整するように、頭脳も規則的な研究の習慣に自ら調整をします。日曜学校の学課の研究のために一日の中の特定の時間をきめなさい。もし

一時間もとれなければ、特定の場所（同じ机または椅子）に二十分でも三十分でもとって、その時間を明確に学課の研究にささげなさい。（ある教師は、主婦としての忙しい家事の中で、午後一時から二時が自分の研究に最適であることを発見しました。一方、ある事務員は午前六時から七時が自分に一番よい時間であると感ずるかもしれません。）あなたの必要に一番合う時間を選びなさい。

総体的研究 学期の初めに、コース全体を見てみなさい。十三課の全体的目標は何ですか？ 前もって熟読し、準備をするなら、まだ先の学課で使用する例話を、新聞、雑誌、あるいは特別な経験から集める時間が充分にあるので、毎週行う各課の研究がやりやすくなくなります。

各課の研究 それぞれの課の研究には一週間全部を充当しなさい。生徒それぞれの表情をまだ覚えている日曜日の午後こそ、次の日曜日の学課を手がける最初の機会として理想的でしょう。もし日曜日の午後が不可能なら、遅くとも月曜日までに始めなさい。その後、毎日研究をしなさい。そうすれば土曜日には簡単に復習するだけでよいようになり、日曜日の朝には快活に自信を持って現われ、礼拝までには、神の御助けとともに、一週間の中で最も効果的で満足すべき一時間を終えることになるのです。

学課の聖書の背景がまず第一です。学課の説明と取り組む前に、関係のある聖句は全部読みなさい。聖句を暗唱しなさい。それはあなたにとって益となります。また、それを学課の中に繰り返し織り込みなさい。生徒たち自身、この聖句を暗記するための動機づけが必要なのです。なぜなら多くのティーン・

エイジャーたちにとって、一週間の中であなた以外だれ一人、聖書との接触をさせてくれた人はいないからです。

教師用教案を研究し、その学課についての著者の説明を研究しなさい。

学課の中心目標、すなわち、あなたが生徒たちにしつかり打ち込みたいと思う真理を選択しなさい。真理はいくつかあるかもしれませんが、あなたのクラスの必要に今、合致するものをも一つ選びなさい。たといどんなに良くても、多くの真理の各種取り合わせたものを提供するよりも、一つの主題に専念し、発展させることのほうが望ましいのです。

学課の背景や、興味深い側面的情報をできるだけ多く入手するように参考資料を調べなさい。コンコルドダンス（聖書語句辞典）、聖書辞典、聖書地図、さらに聖書考古学の本もあなた個人の書齋に揃えたらよいと思えます。いつも「ペンテコスタル・エバンジェル」誌（訳注・米国アッセンブリー教団の週刊機関紙）の「この現在の世界」のページを見て、イスラエルや考古学、世界の事件などを調べてみなさい。若者たちは今日世界で起きていることに興味を持っています。

学課のアウトラインを紙に書きなさい。アウトラインと言うと、学課を引っかける、高い支柱の骨組みを想像するかもしれませんが、私たちの考えているのは、そういうものではありません。あなたがこの学課の中で語りたいと思う事を適切な順序に、ただ書けばよいのです。ある熟練した教師は、まず初

めに話すことを三つ書き記します。たとえば、生徒自身の中から学課の真理を引き出したいので、そのための誘導尋問になる三つの質問を書くのです。たといクラスではそのアウトライン通りに話をしなくても、頭脳の鍛練は益となります。

学課の授業には何十分という時間しか割り当てられていません。一つの不必要な考えに心を奪われ、終わりのベルが鳴っても本論にはいらぬ、下手な教師のことを私たちはみなよく知っています。これは大抵、計画が充分でなかったからです。生き生きしたティーン・エイジャーのクラスでは、論理的に可能な限り早く中心の真理に取り組むことにより、討論の時間を多くとることができます。時間が許せば、あとで要点を繰り返すことができます。

学課をあなたのクラスの必要に応じて調整しなさい。二つとして同じグループはありません。あなたは今、現在に住んでいる青年たちを取り扱っているのですから、あなたは教案の著者よりも、あなたの生徒たちの今、現在の必要についてよく知っているはずで、これは異端の教えのように見えるかもしれませんが（教案の著者に関する限り）、もしある課に、実際的で必要な真理があまりにも多くあるので一回の日曜日では話しきれないと感じるなら、ぜひあなたの学課を作り変えて二回の日曜日を使うようにして下さい。これにはもう一つ別の目的があります。それはクラスの興味をかきたてるということです。生徒の頭に質問が浮かびますが、あなたは自由に、また充分に答えることができます。あ

あなたはまた生徒たちに、自分たちでいくつかの質問に対する解答を求めるように、責任を割り当てることもできると思います。

質 問

- 一、成功の基本的構成要素は何ですか？
- 二、高校科の教師が自信を持つかぎは何ですか？
- 三、準備にはどんな二つの型がありますか？
- 四、教師が祈るべき三つの事をあげなさい。
- 五、各学課を研究するとき教師が従うべき順序を示しなさい。

第六章 教室での高校科教師

「五年前に用いていたのと同じ方法で活動している企業は、倒産に向かっていて」と言われています。企業と同じように日曜学校でも近代的技術が必要です。日曜学校の時間は、最新の若者たちを教えるために最新の方法を用いる、最も進んだ時間でなければなりません。高校科の教師は古い方法や技術にしばられてはいけません。実際問題として、一九七〇年代（訳注・原著者は一九六〇年代としてある）の知的に目ざめている青年たちに、重要なキリスト教の原理を伝達しようとしているのに、一九二〇年代の定型化した方法に逆戻りすることができるでしょうか。

このことの説明として若い新妻の話があります。彼女はハムを焼く前に端を二インチほど切り落としました。彼女の夫は興味深げに、なぜこの手続きが必要なのかを尋ねました。奥さんは「さあ、本当は知らないの。お母さんがハムを焼くときに、いつも二インチ切っていたからなの」と答えました。お母さんのところまで行って尋ねてみましたが、お母さんも正確な理由は知りませんでした。おばあさんがいつもそうするのを見ていただけなのです。当然、この秘密は追跡されました。おばあさんにこの質問

がされたとき、彼女は両手をあげ、大笑いをして、「まあ、何ていうことでしょう。私がいづもハムを二インチ切ったのは、お鍋が二インチ小さかったからですよ」と言いました。

ある日曜学校の教師たちはこのようにして教えています。彼らは毎日曜日、必ず、学課の名前を言い、暗唱聖句を言い、続いて生徒全員にその日の聖書学課を大声で読ませるのです。彼らはハムの端を二インチ切っているのです。しかもその理由を知らないで。もし彼らが立ち止まって質問を試みるなら、もつと効果的で苦痛の少ない教授法を発見できるかもしれません。

授業時間

ほとんどの教会には、日曜学校の時間の代わりに、一時間とまとまった純粋な訓練と教育の時間はほかにありません。ですからこの目的を達成するのは、ひとえに日曜学校にかかっています。日曜学校は教えなければなりません。日曜学校はキリスト者生活の訓練をしなければなりません。私たちは私たちの教理の原因と理由を教えなければなりません。青年たちは自分たちの信仰の理由、行動の基準、試練の時に堅く立つ方法、聖書の批評家に答える方法などを学ばなければなりません。そして本当に幸福になるためには、人生のあらゆる面において真のキリスト者にならなければならない、ということ

確信しなければなりません。

教室の中で

一般的には、日曜学校の学課を教えるために割り当てられている時間は約四十分です。多分ティーン・エイジャー自身が科の開会礼拝の部分の司会をしているでしょうが、科の主任は授業時間に食いこまないように、時間内に終わるようにと要求しなければなりません。クラスこそ日曜学校の全時間のクライマックスであり、すべてのものが集中する焦点なのです。ですから実際の授業は、開会部分がどんなに楽しくても、生徒たちが学課の勉強を期待するほど、心を捕える、興味深いものとしなければなりません。

時間の構成をすることは、ある点まではよいと思われれます。適当な開始と適当な終わりが必要です。しかし、授業時間をあまり構成してしまおうと窮屈です。よい教師は一週間の間、家庭における自分の学びの時間をきちんと編成して使うでしょうから、授業時間までには充分な資料を持っていて、クラスの空気に応じて自由自在にその資料を用いることもできるし、またその空気を正しい方向に向けることもできるはずです。次のような融通性のない学課のスケジュールで、自分自身を拘束してはいけません。

点呼や、その他必要なおしゃべりに三分間、緒論に五分間、展開に二十分間など、など。いつもこのようなスケジュールを固守するなら、クラスの熱情を押さえつけ、教師の邪魔になり、生徒たちを退屈させることになりません。

緒 論

ある教師は、十五歳の少年がほんの数時間離れていただけで、お互いにどれだけ多くの話をしなければならなくなるかを認識し、「安全弁」と彼女の名づけた技術を用いています。彼女は授業時間の初めに六十秒間の「おしゃべり休憩」を宣告します。（明らかに、これは小さなクラスでしかうまくいかないでしょう。）若者たちは興奮したようにおしゃべりをします（もちろん、あまり大声を出さないようにと注意をしますが）。その間に教師は点呼をし、記録の仕末をしていますが。女の子たちは自分たちの新しいボーイ・フレンドのニュースや、それと同じように重要な他の話題をほとぼり出させます。男の子たちは自分たちの改造車について、あとまで黙って待ってられないような情報を持っています。彼らがこういうものを最初に頭から取り除いてしまうなら、彼らはもっと敵愾な事を、落ち着いて聞く気持ちになれるし、実際にそうすることができるとは思います。彼らが話している間、教師は表面的には点呼をしているのですが、彼らの言っていることに注意深く耳を傾けるべきです。それから彼らの会話の主

題を跳躍台として用い、一、二問質問をし、興味を捕えるような問題を持ち出し、いろいろな話題をまとめて、学課の中に入り出すのです。生徒たちはほとんど気がつかないうちに、速やかに教師のペースに乗ってしまうのです。結局のところ、効果的な教師は生徒たちに伝達をするのです。伝達（コミュニケーション）は相互的です。ですから、くだけた形のやりとりによる接近作業（アプローチ）が必要なのです。

ある大学の卒業生が自分の体験をこのように説明しました。「私の知っている教師の中で、一番良かった教師は、最初は学課と全然関係のないように思える、いくつかの質問で授業を始めました。私は『いつ学課にはいるのかな』と思うのですが、はっと気がつく、彼の出した質問は要点を打ち込むための誘導尋問になっているのです。」

この教師は、ある問題（社会問題あるいは今日の世界問題）の討論に学生たちの注意と協力を引きつけることにより、クラスの関心と注意を捕えることができ、授業の終わりまで保つことができるということを知っていたのです。

種々の方法を用いて、手許の学課にクラスの注意を引きつけるには、三分、五分、あるいは十分から十五分もかかるかもしれませんが、けれども重要なことは関係ができるということです。もちろん、何の関連もない、世界問題についての要点のない討論はよくありません。（また、教師の準備が貧弱で、ず

さんであるために、討論方式に訴えるのもよくありません。)けれども日曜学校以外のどこで、子供たちは実際の・日常的問題に対するキリスト教的解決を学ぶことができるのでしょうか。緒論は、親たちに日曜学校に間に合うように寝床から引きずり出された、不気げんな若者たちの脳髓を刺激し、考えを突っ突き、興味を活発にさせ、注意力を捕えるものです。それは十五歳のジェーンの注意を、サリーの着ているかわいらしい新しい洋服から引き離すほどの強力な、興味を捕えるものでなければなりません。一番最初の良い例話、議論を引き起こす質問、好奇心をそそる問題などが、授業時間全体の空気を決定してしまいます。

学課の展開

学課に適切な展開方法を選択しなさい。講義ですか。討論ですか。劇ですか。質疑応答ですか、あるいは討論会かもしれません。「種々は人生の香料である」という格言は、あるいは使われ過ぎているかもしれません。しかし、それは特に日曜学校のクラスに適用されるものでしょう。

討論会方式 学課に関する質問を討論するために、クラスから二名か四名の生徒を選びます。もし必要なら、問題の反対派と賛成派にあらかじめ分けておくこともできます。あまり複雑にしないで下さい。生徒がこわがって日曜学校に来なくなったら大変です。この討論会が終わったら、クラス全員に話

し合いに参加してもらい、正しい結論を形成するように巧妙に彼らを導いて下さい。おとなによる、どんな大量の教えも、ティーン・エイジャーたちが自分たちで到達した結論ほど効果的でない、ということを選びとった教師は、青年を教えることに関するすべての秘訣を学びとったと言えるでしょう。

クイズ方式(訳注・簡単なテスト方式)あるときにはクイズで始めることができます。鉛筆と紙を配ります。学課に関するいくつかの質問をします。これらの質問はティーン・エイジャーの考えや用語に適応させます。クイズによって教師は、生徒が教理や、キリスト教真理の実際の適用についてのどこらいつ知っているかを知ることができます。クラスのメンバーがよくできないなら、教えてあげなさい。弱いところがあるなら強めてあげなさい。そしてそのクイズを数週間あとで繰り返しなさい。その結果は、あなたが教師としてどんなに効果的であるかを示してくれるでしょう。

次にあげるものは、聖霊の学びのあとで出したクイズの一例です。授業の中で、ほんの数分で行うことができます。

一、五旬節とは何ですか。

二、聖霊の満たしについて、新約聖書のどの聖句が示していますか。

三、あなたは聖霊の満たしをいただきましたか。

四、もしまだなら、求めていますか。

五、どのような特別な目的のために、私たちは聖霊に満たされるべきですか。

六、あなたがこの前、証ししたのはいつでしたか。

七、聖霊を受けたことを示す最初のしるしは何ですか。

八、聖霊の賜物の名前をできるだけ多くあげなさい。

九、御霊の九つの実をあげなさい。

このテストは、あるグループの四十四人に対して行われました。そのうち三分の二はペンテコステの家庭で育てられていました。使徒の働き二・四を確実に知っていたのは、三名だけでした。六番の質問——あなたがこの前、証ししたのはいつでしたか——については、四十四名中二名しかその前の週に証しをしていませんでした。他の者たちは「勇気がなかった」と告白しました。怠慢な日曜学校の教え方に対する何という告発状でしょう。

このクイズの見本は、聖霊に関する学びに特に適用することができます。けれどもあなたは今教えている学課を取り扱うために、別のクイズを作ることができます。生き生きとした、日常的問題を把握して下さい。それらと取り組む方法を生徒に教えなさい。あなたは学課との関係で、次のような実際的な問題に照明を当てることができるでしょう。学校でのカンニング、方便としてのうそ、救われていない人とのデート、みんながやっているのに、どうして私だけがやってはいけないという哲学。これらはペン

テコステの青年たちを悩ませている今日的な、現実的な論争点です。彼らは健全な、**聖書的に基礎づけ**られた解答を必要としています。

もし、どう答えたらよいかわからない質問が出されたら、わからないと認めなさい。「知りません」とはっきり言うのです。けれどもそれを研究し、次の週までに解答を見つけるようにするのです。正しい解答を当然知っていると思われる人たち、霊的指導者たちと話しなさい。その主題を取り扱っている聖句の引照を見つけなさい。それから多くの情報を身につけて、クラスに報告をするのです。もし道徳的原則が含まれているなら、答えはただ一つです。ですから、それを強調して下さい。けれども論議の余地がある質問なら、個人的偏見や、好みを土台とした一つの意見について、独断的にならないように注意をしなくてはなりません。

教師の目的

なぜあなたは日曜学校のクラスを教えているのですか。あなたの牧師や校長を喜ばせるためですか。他の人たちに、あなたは教会で日曜学校の教師をしていると言えるようになりますか。あなたの目的は何で、あなたの目標点は何ですか。自分に対して正直になって下さい。あなたの目標点がもし正当なもの

でないなら、主に、正しい動機を教えて下さるよう求めなさい。それから、紙に、あなたの目標が何であるか、どういう目標を持ちたいのか、書いてみなさい。こういうふうに書き始めるのです。

私は高等学校の男子（女子）クラスを教えています。それは……

青年たちを教えるにあたって、私たちの前に置くべき理想的な目的のいくつかがあるが、ここにあげられています。

私は私の生徒を次のように導きたいと思います。

- 一、キリストを個人的救い主として知り、自分の生活の主とし、友としてより頼むようにさせる。
- 二、神を天の父として知り、愛するようにさせる。
- 三、聖霊を人格として知り、聖霊の満たしを受けるようにさせる。
- 四、神のみことばである聖書を愛し、毎日読むようにさせる。
- 五、祈りを毎日の生活の基本的部分とさせる。
- 六、神の戒めを知ることにより、そのすべてに従わせる。
- 七、試練の時に堅く立つ方法を知らせる。
- 八、キリストから離れている人は失われていることを認め、証しをすることによって他の人々を獲得し、教会の宣教プログラムを推進するようにさせる。

- 九、キリストの教会の交わりと奉仕の中で、最も適した場所を見つけさせる。
- 十、神のみことばに従って一生の職業を選択し、このようにすることによってのみ、真に幸福になれることを知らせる。

十一、イエス・キリストとの個人的関係を傷つけないように毎日生活させる。

教室での決心の時

いつでも、できる限り学課の中心主題と関係づけながら、決心をうながして下さい。もし神への服従が強調されたなら、神のみことばに従うということに個人的に委託することを勧めなさい。学課が証しについてであるなら、少なくとも週に一度は証しすることを自ら誓約するように挑戦しなさい。あなたの学課の陳述は論理的で興味深いかも知れませんが、生徒がそれを自分に適用し、自分の意志で受け入れるときにのみ、それは彼らの生活の中で実用的な部分となるのです。

教室でのしつけ

教室の中でしつけを保持するのは教師の責任です。ティーン・エイジャーたちはそのことを知ってい

ます。教師も当然知らなければなりません。時々、青年たちは、それをどれだけ取り除くことができるかという誘惑にかられます。一度、うまくいくと、型が定まってしまいます。この教師ならここまで、あの教師なら何でもできるというぐあいにはです。

教師がとうとうと説教をしている間、生徒たちが堅くすわって注意を集中しているような、きつく抑制されたクラスは不自然ですし、多くの好ましいものを除外しています。他方、寛大な教師は、物ごとが騒然としているところでは、何もできないということを発見しなければなりません。

では理想的な状況とはどういうものでしょうか。

ひとたび高校科にはいったなら、生徒には、若いおとなのように行動することが期待されていることを知らせるべきです。彼らは大抵、すでにハイヒールや、背広とネクタイの段階にはいつているのです。ある者たちはパート・タイムの仕事を持っています。さらに彼らは職業の選択をさえしつつあるのです。ですから彼らはそれ相当の行動をとるように期待されています。けれども、もし彼らが子供っぽい行動に逆行し、頼るなら、彼らは子供のように取り扱われるべきです。ですから適切なしつけが執行されるべきです。

ある高校科は実用的なしつけの規定を制定しましたが、これは非常に成功しました。規定はまず最初、高校科の職員によって形造られました。それから牧師、教育担当伝道師、日曜学校校長に提出さ

れ、承認を受けました。それから親たち全員が、特別な親と教師の協議会に呼び集められました。この規定は全員の気がすむまで説明され、親たちの承認を受けました。それから初めて生徒たちに全部説明されました。三年間、しつけの規律は発効していますが、第二段階のしつけの手続きをとる必要は起きていません。

簡単に、しつけ規定案を次に記しましょう。

違反一——教師は生徒に正しく行動するようにさせて成功しなかった場合、その生徒を呼び、個人的に心を割って話をする事。

違反二——教師は科主任に警告を出し、その生徒を主任のところに相談のために送ること。

違反三——主任は問題の生徒の両親に知らせ、家庭で対処するよう依頼すること。

違反四——両親が即座に科に呼ばれ、その生徒は両親の手に渡されること。

違反五——両親または片方の親が、二ないし三週間、そのティーン・エイジャーと一緒にクラスに出席するよう求められること。(親と教師の協議会で、親たち自身がこの項目を追加するように要求しました。)

違反六——生徒は日曜学校からではなく、高校科から追放され、両親のクラス、または他のクラスに出席するよう、両親に通達されること。その生徒は適切な謝罪と適切な態度での行動を約束しない限

り、高校科には戻ることができないこと。(ある親たちは初め、生徒を科から追放するという考えに仰天しました。しかし討論の末、出席している未信者の家庭のティーン・エイジャーたちを失う危険を冒すよりは、手におえない、問題ばかりを引き起こす生徒を停学させるほうが好ましいということに意見が一致しました。)

この規定は、ここでは科で使用する形式で提示されていますが、単一のクラスでも必要に合致するよう適用し、変更をすることが可能です。

質 問

- 一、きのうの方法は今日でも役に立ちますか？ あなたの答えを説明しなさい。
- 二、日曜学校の目的は何ですか？
- 三、学課の緒論はなぜ重要ですか？
- 四、教師が学課を展開できる方法を少なくとも三つあげなさい。
- 五、クイズはどういう役目を果たしますか？
- 六、あなた自身のクラスを導きたいと願っている目標を書き記しなさい。
- 七、高校科のしつけ規定の中で、両親はどのような役割を果たしますか？

第七章 高校科の教室

環 境

環境は私たちの気分や考えに影響を与えます。それは雰囲気を作り出したり、破壊したり、私たちの霊を高めたり、収縮させたり、私たちを鼓舞したり、挫折させたりします。理想的に言えば、私たち人間は自立的で、自給自足であって、環境によって影響を受けるべきではありません。しかし私たちの中に、存在している状態から、自分自身を実際に分離できる人が果たして何人いるでしょうか。固い決意を持ったおとなでさえ、環境が不愉快だと歩みが厳しいと感じるのですから、ティーン・エイジャーにとっては(ある者たちは日曜学校に出席しようがしまいが、あまり重大なこととして考えていない)、陰気な環境の中に浸りきるといふことは、どんなにか困難なことでしょう。

ティーン・エイジャーたちは親の圧力か、自分自身の決定のどちらかによって、日曜学校に出席します。高校科と教室は魅力的であり、陽気で、快適で、居心地のよい所でなければなりません。広さは適当

であり、裝飾は調和のとれた、心地よいものでなければなりません。心地よい環境が、反抗的なティーン・エイジャーの問題を全部解決するわけではないでしょうが、彼らを幸福にするには、大いに役に立つのです。適切な、居心地のよい設備に力を入れる日曜学校は、うすら寒い教室、貧弱なペンキの塗り方、陰気なカーテンなどを放置してある日曜学校よりも、自分自身の意志で喜んで来る生徒たちの率が高いことを誇ることができます。日曜学校の教室が今述べたあとの部類に属する場合、その教会は、青年への投資という点において、今までの考え方を再評価したほうがよいでしょう。

環境的に言って、あなたの日曜学校が当然あるべき状態になっていないとしたら、それは**経済的欠乏**あるいは**幻の欠乏**のどちらかによるものでしょう。

幻の欠乏は不十分な経済よりも、多分もっと重大な問題です。なぜなら、お金よりも幻を持っている日曜学校の職員は小さな事に大きな事をさせることができるからです。経済的には支障がなくても、幻のない職員に対してはビタミンIとE（訳注・I—英語の「靈感」の頭文字、E—英語の「熱情」の頭文字）の大きな注射を腕にしてあげる以外、何もすることができません。幻の不足している職員は有能な日曜学校の医者によって、日曜学校の熱情というジャンボな注射をしてもらう必要があります。本当に熱心な人が指導する職員研修講座は、必要とされている授業を充分にすることができるとは限りません。

日曜学校の適切な設備を犠牲にして、会堂に劇場のようなビロード張りの椅子を設置することを決定

した教会役員会は、数年後になっても、その大事にしている椅子が使われずに手つかずのままになっているのを見いだすでしょう。青年をないがしろにする教会は、彼らが自分たちでうまくやってくれることを期待しているのですが、これは非現実的なことであります。

経済の欠乏 あなたの科には最高の設備がないかもしれませんが、けれども少しばかりの作業と考え深い立案により、あなた方の必要にびったり合致したものを職員たちで作ることができます。

あなた方には一つの部屋を何かで仕切った日曜学校の教室があるのか、あるいはホールと別々の教室を持っている、何もかも整った高校科があるのか、あるいはこの中間のような設備があるのかわかりませんが、いずれにしても設備は清潔で、充分に手が行き届き、整頓されていなければなりません。

若者たちを働かせなさい。お金が浮くだけでなく、もっと大切なことは、彼らのあり余っているエネルギーを利用することができ、また日曜学校の教室に対する熱情を生み出すことができるということです。（第一章の「事業計画委員会」を参照のこと）

設 備

今日の状況では理想的な広さを割当てることは、いつでも可能なわけではありません。けれども将来

目ざしていく理想図を持つことが得策でしょう。ですからここで、理想的な高校科とはどういうものを、簡単に説明いたします。

ホー ル

このホールは高校科の開校集会が行われる場所です。それは魅力的で、広くなければなりません。理想的には、入口は部屋のうしろの部分にあって、遅れて来た人がきまり悪い思いをしたり、音を立てて邪魔をしたりせずに、そと中にはいれるようになっておくべきです。書記の机は入口の外に置いた方が都合がよいでしょう。

ホールの設備

充分な数の椅子

ピアノ（調律のしてあるもの）

聖書台

できれば、一段高くなった講壇

黒板と展示板（あとで各教室用に説明するのと同じもの）



白墨と黒板消し

収納設備

ホールの装飾

ホールは清潔で、手が行き届き、整頓されているべきです。（バラバラになった賛美歌がピアノの上にはうり出されているべきではありません。）魅力的なカーテンはぐんと引き立てます（「事業計画委員会」参照のこと）。部屋の装飾は質素なものが望まれますが、鉢植えや生花などはよいと思われま

各教室

個室であっても、他のクラスと一部屋を仕切ったものであっても、とにかく教室はあなたのクラスのものでありますから、その事実を宣言すべきです。それは清潔で整頓されているべきです。この二つは別の事です。部屋は清潔かもしれませんが、それは掃除係が床をはき、椅子をふくという義務を果たしているのです。けれどもがたがたの折りたたみ椅子の山が片隅にあり、見苦しい古い文書の山がもう一つの隅にあるという状態なら、部屋は整頓とはほど遠い状態なのです。

教室にはよい照明と換気が必要です。部屋が寒すぎても、暑すぎても、不愉快です。暖かすぎる部屋

は眠気を催す点では睡眠薬と同じ働きをいたします。

教室はあまり混雑してはいけません。この科の教師は十五名以上の責任を持つべきではありません。十ないし十二名が望ましいのです。

交通、その他による騒音による妨害はできるだけ避けるべきです。椅子は教師と視覚教材に全注意力を集中できるように配列すべきです。

教室の設備

設備は、最低限度、必要なものにしか支出が予算化されていない学校の場合でも、質素でありながら、なお魅力的にすることができます。

生徒の個人用椅子

教師のための机と椅子は必需品です。もし教師が望むなら聖書台でも結構です。

実用板 この板をよく計画を立ててつけるなら、壁の装飾はほかに何もありません。教室の正面に取りつけた理想的な実用板は、授業に必要な黒板の部分と、切りぬきなどのための展示板と、本の展示やぶらさげる視覚教材のためのハンガー・ボードの部分を含むべきです。(ハンガー・ボードの金具などは金物屋で購入できます。)



装飾 壁にきれいにペンキが塗られ(柔かく薄い色合い)、実用板が一定の場所に取りつけられているなら、教師の机の上に小さな鉢植えか、魅力的な花びんを置く以外、それ以上の装飾はほとんど必要ではありません。

高校科の文書

教師のため

教師用教案

視覚教材

「日曜学校カウンセラー」誌(訳注・米国アッセンブリー教団発行の教師用月刊誌)

教える秘訣——高校科編

新聞

生徒のため

生徒用教案

質問

- 一、環境は日曜学校の士気にどのような影響を与えますか？
- 二、どのような二つの条件が日曜学校の妨げになりますか？ それに対してどのような対策をとることができますか？
- 三、若者たちは、自分たちの科を整えるために、どのような役割を果たせますか？
- 四、各教室に必要な設備の名前をあげなさい。

第八章 伝道と拡大

高校科のときほど、教会が若者たちを日曜学校の中に保持するために、努力しなければならない年齢は他にありません。先に述べたように、統計は、現在小学上級科及び中学科にいる若者たち八人のうち七人は、十五歳になるまでに脱落することを示しています。もし若者たちをしっかり捕えることに失敗したら、一体どうして私たちは日曜学校を保持し、拡大していくことができるのでしょうか。彼らは彼らが大きな、そして重要な決断を絶えずし続けて行く、彼らの人生の中で最も危機的な時期に脱落がちなのです。彼らは一生続く価値観を形成しつつあります。ある青年指導者は、今日のティーン・エイジャーたちは十九歳になるまでに、彼らのおじいさんたちが九十歳になるまでにした決断よりも、さらに多くの決断をしなければならぬと述べています。もしこれが真実なら、そしてティーン・エイジャーたちが高校科レベルで日曜学校を去って行くとしたら、日曜学校は青年たちの最も危機的な時に彼らの期待に添っていないこととなります。

この脱落の問題は日曜学校独特の問題ではありません。もちろん日曜学校の方が世俗的な教育機関よ

りも脱落率が高いのですが、このことについて一般の教育者たちがますます関心を持つようになってきました。高等学校の学生たちは、感情的・知的・経済的問題に取り囲まれて、愚かにも、その時に楽だと思える道を選んでしまいます。そして高等学校の修了証書を得る前に働きに出てしまいます。しかし、あの無慈悲で敵しい主人である経験は、彼らに、学校をやめる楽な道は、結局はおとなの世界にはいるためには一番困難な道であることを教えてくれますが、それはしばしば、手遅れなのです。

若者たちが教会を離れる理由は多分、一つだけではありません。それはいくつかの理由が結合したものです。青年期に訪れる複雑性、権威に対する反抗心、独立に対する猛烈な衝動、これらがしばしば感動を与えない、非能率的な日曜学校の奉仕者と結びつきます。これらが結びついて、私たちが彼らを保持できない理由となるのです。

「教会自体、その責めの一端を荷なわなければならない。教会は青年に対する自分たちのプログラムを、時間をかけ、徹しく調べなければならない。これらの青年たちのほとんどは、キリストを救い主として知っていない。それゆえ、彼らは彼を生活の主とすることができない。キリストとの個人的体験を当然のこととする（あるいはその必要を無視する）ことによって、教会は青年たちを失望させ、そうすることによって、教会の最大の責任と挑戦の領域において失敗をするのである。」（ベル）

伝道の進化

もし伝道とは何かを理解するなら、それはやさしいことです。「街道や垣根のところ」という書物の中で、レイモンド・T・ブロックは伝道の様々な面を五つの明確な段階にまとめられています。それは**接触、耕作、委託、回心、保全**です。これらの名詞はみな行動を意味します。なぜなら伝道は行動だからです。それらは高校科の伝道を非常にきちんと、効率よく分類していますので、ここで私たちの目的のために彼のアウトラインを活用させていただきたいと思えます。

接触 私たちが救われていない人（隣人であれ、級友であれ、あるいはふと知り合った人であれ）の注意を初めてキリストに向けさせたならば、その時、その場所が**接触**です。すなわち、だれかを初めてキリストに紹介することです。接触は戸別訪問の時にできたり、恵みの座での個人伝道の時、あるいは電車の中で会ったとか、病院のベッドで会った時にできるものです。

耕作 これは罪人がキリスト者生活に興味を感じたときの段階です。時々私たちは、私たちのキリスト者生活こそ私たちの宗教経験の豊かな証拠であると論じて、不活発になることがあります。言葉は不要です。私たちがキリスト者であることを、人々に見てもらおうと言うのです。もちろん私たちは、キ

リスト者生活の重要性を軽視しません。なぜなら、それは伝道の背景だからです。けれども伝道は行動です。

もしキリストのような生活をするなら、それについて何も言う必要はないという考えは極端に走るこ
とがあります。たとえば、ミシガン州の木材搬出小屋で一人の人がもう一人の人に言いました。「おれ
たちはここで二年間も一緒に仕事をしていただけで、お前がキリスト者だったとはちっとも知らなかつ
たな。去年の冬、飛行士がここにいたとき、彼はおれの魂について話しかけてきた。その時に、お前み
たいな立派なやつが宗教なしにやっていけるなら、おれもそっちにかけることができるだろうと言って
やったんだ。」もちろん、黙っていたキリスト者は、自分がキリストに対して不忠実だったことに気づ
いたのです。

委託 この言葉自体、自明であります。委託とは字義的に「何かをする約束、または誓約」というこ
とです。キリストへの委託は、罪人がキリストを信じ、キリストのために生活することを約束し、キリ
ストを受け入れたいと願って一步を踏み出すことです。

回心 これは「信念と確信の変化に伴う霊的・道德的变化」のことです(ウェブスター)。それは委
託のあとに来る部分であり、誓約を守り、約束を実行していることの証明です。

保全 回心をしたときに人々は回れ右をします。罪からキリストへ向きを変えます。彼らはまた、キ

リストとの個人的関係に到達します。その回心したばかりの新しい赤ちゃんを保つ方法は、ただ、主と
のあの関係を何によっても損われないような生活することです。私たちが問題とするのは、だれかの
偏見や意見を傷つけることではなく、彼ら自身の関係に影響を与えることについてであります。

そうです。**保全**は伝道の一部です。教会の責任は、その新しい回心者たちをキリスト者生活の中で
訓練することによって保持することです。これはまた、若者たちに対する高校科の責任でもあります。
高校科はティーン・エイジャーたちに、何を信じるのか、またなぜそれを信じるのかを教えなければなり
ません。高校科は彼らに、自分たちの生涯に対する神のみこころを知ることの重要性を知らせなければ
なりません。神のみこころを読み、毎日祈ることによって、道德的・社会的・個人的標準を決定できる
ということを確信させなければなりません。すなわち、何が正しく、何が悪いのかを知ることができま
すし、何をしてよいのか、何をしてはいけないかを知ることができます。活動や習慣の選択、大事
にしてきた夢の実現などは、それがキリストとの個人的関係にどのような影響を与えるかによって決め
られるべきです。そうすれば、だれもがやっていることを何でもするわけにいかないことがわかってく
るでしょう。他方彼らは、他人による抑圧や禁令によって束縛されるとは考えなくなるでしょう。重要
なことは**自分に対する神のみこころを知り、それに服従すること**です。

若者たちにこのような教育を施す高校科は、脱落の問題に直面することがまずないと思われれます。

高校科ができる事

現在のメンバーの維持

高校科は青年期の必要——帰属意識、愛情、何かを達成すること、功績を認められること——を認識しなければなりません。

青年期は帰属意識を必要とします。高校科は教会に必要な一付属物で、完全におとなによって運営されているものではなく、自分たちの科でなければなりません。ここで彼らは自分たちの社会的渴望（必須の要素）を満足させ、自分たちが本当に好きで尊敬しているおとなたち（この感情は相互的でなければならぬ）と意志の伝達をはかり、自分たちの人生の問題を解決するのに役立つ方程式を、解く方法を学ぶ（学んでいることを意識するとしなかに関わらず）べきなのです。

愛情を必要とします。愛に対する必要が家庭で満たされると否とに関わらず、彼らは、他のおとなたちが自分たちに起こることに對して関心を持っていることを知りたいのです。

達成することが必要です。自分自身の探究の中で、青年たちは自分の価値を証明することに熱心であり、競走的です。彼らは優等生になるとか、花形スポーツ選手になるとか、ピザ作りの賞を獲得するか、何であれ、何かを達成し、個人的業績をふやし、あるいは何かに抜きんでることを求めます。

その達成したことを認めてもらうことが必要です。彼らは自分たちの尊敬する人たちによって、自分たちが感謝され、自分たちの努力が認められることをせつに願っています。このように認めることは、教師や職員に一層の努力を要求します。それは生徒が学校や地域で受けたと思われる、受賞者のリストを、新聞紙上で詳しく探さなければならぬからです。これはかなり退屈な仕事です。特に大ぜいの名前のリストの中から探すときはそうです。しかし、その行績が公に紹介されているときには、そのティーン・エイジャーに對して、それなりの価値ある効果をもたらすはずで、彼らは自分の努力が認められたことを知り、教会の誇りとなったことを知ることができるのです。

アウトリーチ（伸展）伝道、コンタクト・キャラバン

高校科の実際的・具体的伝道プログラムについては、第一章の「名簿委員会」を参照して下さい。

教師ができる事

アウトリーチ（伸展）伝道

キリスト者の働き人が魂を獲得できるように、ある牧師は次のような、実行しやすい公式を作りま

した。

見よ (Look) —— 幻がなければ民は滅びる。

働け (Labor) —— 出かけて行って、人々を無理にでも連れて来る。

愛せ (Love) —— 教会と罪人の間の大きな裂け目は、愛によってのみ橋渡しをすることができる。

第四章において私たちは生徒の家庭背景について論じ、多分、大ぜいの生徒は親が教会に出席していない家庭から来ているという話を話しました。これらの、教会に行っていない親たちは、日曜学校にとってすばらしい候補者になります。教師たちは忠実に生徒の調査書を書き入れることによって、アウトリーチの働きを成就することができず（調査書に適切な記入をするためには、通常、生徒の家庭訪問が要求されます）。このようにして教師は、候補者を探し出すことができます。けれども、見つけたあとは働きと愛が必要となります。

もう一つ別の型の伝道について、ある中西部の牧師が、自分の日曜学校の教師について語った例話によって、よく説明ができると思われれます。彼女の責任に対する献身には、見よ、働け、愛せという魂を獲得するための条件が含まれていました。彼女は日曜学校の少年たちに対する幻に燃えていましたので、毎土曜日の午後、近所を回り歩いて、候補者になりそうな者、すなわち十一歳ぐらいの少年たちを探しました。一人でも見つけると、彼女は日曜学校と教会に誘いました。彼女はこうして約二十名を集めま

した。彼女は教会では彼らと一緒にすわりました。何人かの子供たちは回心しました。ある十一歳の少年の両親は、彼がある日曜日の夜、洗礼を受けるのを見に来ました。その結果、彼ら自身、自分たちの救われる必要に気がつき、心を神にささげました。彼らはそれから、自分たちの親せきや友人を連れて来始めました。一か月の間に、この十一歳の少年の親せきが十一名回心し、四十六名が教会の扉をくぐりました。これはみな、十一歳の少年たちを見、彼らのために働き、彼らを愛した一人の日曜学校教師の幻と努力によることでした。時には、私たちは出かけて行って、人々を「無理にでも連れて」来なければならぬのです。

現在のメンバーの維持

生徒と個人的な友人となりなさい。生徒に対する超然とした、非個人的なアプローチのし方は、ただに彼らとの親しい関係を阻害するだけでなく、あなたが伝達したいと努力している真理の力をも滅殺することになります。教師が言っていることに重要性を持たせるためには、ティーン・エイジャーたちに尊敬され、好かれ、さらに愛される教師にならなくてはなりません。

日曜日と日曜日の間に、彼らと接触しなさい。彼らは日曜日の朝だけでなく、一週間の他の日にも同じように、靈的に預けられた者たちなのです。欠席してもしなくても、定期的に電話をかけなさい。教

会やその他の所でふと会うことが、個人的な接触（親しい笑い顔、励ましの言葉など）の絶好の機会となります。あなたのアプローチを生徒一人一人の性格や気分に合わせてください。あなた自身の感情や気分によって、生徒への挨拶のし方が影響されないようにしなければなりません。

毎日曜日、あなたは教室に時間よりも早く来ているから、彼らは自由に話をしに来てよいことを知らせておきなさい。厳粛な話し合いはあまりできないかもしれないかもしれませんが、軽い話でも、後ほどさらに厳粛な話し合いをするためのお膳立てをすることになるのです。

親睦活動を利用しなさい。これは単一の高校クラスにも、高校科の中のクラスにも適用できます。科の親睦活動は、教師と生徒の間で必要な、親しい親睦的接触の要求を満たすことはできません。しばしば、様々な方法で教師が生徒と接触をすればするほど、彼らの感情や気分、思考形態などを理解するよい機会が与えられます。ですから、親睦的接触の機会を全部利用すべきです。

高等学校の学生たちは、彼らの学校のスケジュールがどんなに忙しくなっても、集まって楽しい時を持つのが好きです。驚いたことに、彼らはほとんど努力なしに楽しみを見つけてことができます。親睦会は何もかも整った演出でなくても、ティーン・エイジャーに好まれるものです。彼らは何か仕事をする——部屋のペンキ塗り、窓ふき、車を磨くこと、修理、掃除——でも楽しんでやります。自分たちが一緒にあり、何かほりほりかじる物があり、不必要な小言から解放されている限り、楽しめるので

す。彼らはまた、お菓子を作ったり、スポーツに参加したり、手工を習ったり、趣味にふけったり、このような活動をするのも好きです。ある教師は、ティーン・エイジの生徒たちを編物とコーラのために自分の家庭に招くことにより、親睦と教育の両面において貢献していると感じています。（女の子のユーモアの感覚、気質、態度、才能などを知る上で、編物を教えることほど適切で早い方法は他にありません。）

生徒たちにさらに多くの学習体験と親睦的接触を与えることに関心を持っている教師には、これ以外にも多くの機会が与えられることでしょう。

しばしばティーン・エイジャーたちは、明白に混乱しており、率直なカウンセリングを必要としています。彼らは精神病医を必要としていません。彼らには、ただ話す機会が必要なのです。お父さんやお母さん以外のだれかに、自分たちを悩ましている事について説明したいのです。カウンセラーになるために（ここで私たちが言っている意味においての）訓練された心理学者になる必要はありません。時には、よい聞き手になる以外、他の何者になる必要もありません。

ある人は、若者たちを助けることに関心を持っていておとなたちを激励してこう言いました。「あなたの助けようとしている手、いつわりのない関心、危機の瞬間にあなた自身を、またあなたの時間を与えようとする気持ち、それらはその重さに相当する金と同じ価値を持っている。いつも記憶していなさ

い。思いやりは精神医学より何百年も古いのだということ。

いつでも役に立つ備えがあるということは、青年たちを助けたり、カウンセリングをする場合の重要な要素です。あなたには助ける気持ちがあるということと同様に、いつも役に立つ備えがあるということとを、彼らは知る必要があるのです。

当惑したティーン・エイジャーの顔と、「問題があるのです」という言葉は、公に助けを求めているのです。けれども彼らは、はつきりと言わないかもしれないかもしれません。ただ回りをうろろろして、椅子を蹴ったり、頭をかいたりして、あなたが「どうしたのだ」と言うのを期待しているのかもしれない。聞いてご覧なさい。驚いたことに彼らはあなたに心を割って話をするでしょう。もし話をしなければ、励ましの一言、時を得た、しかしあまりそのものずばりでない質問などが、ポンプの呼び水になるでしょう。重要なことは、あなたがそこにいることを知り、自分たちにはあなたが必要である、ということと彼らが知ることです。けれども覚えて下さい。どんな形のカウンセリングでも、他の人に聞こえない所で行われなければならないということ。あまり大ぜいの人が聞いている所では、だれも心を開きません。

よい聞き手になりなさい。大抵の問題は一度話してしまえば、自ら解決するものです。同情的な耳と、時々問題を引き出すためにする質問だけで、通常は充分です。彼らが自分で解決できる問題は、大抵、そのまま解決済みになってしまふものです。

「自分で調節できない内面的な問題で悩んでいる少女は、彼女の周囲の人たちにも迷惑をかけます。」(モーザー) これは男の子についても真理です。もし教師として私たちが、若い人たちに自分自身とその能力を受け入れることを学ばせることができるなら、私たちは多くのティーン・エイジャーたちを緊張から解放させることができます。そして彼らは自分自身と一緒に、また周囲の人たちと一緒に、そして神のために幸福な生活をする事ができるのです。言うまでもなく資格のある精神病医が必要であることが明らかな場合は、あまりいじりまわしてはいけません。

ティーン・エイジャー自身ができる事

アウトリーチ伝道

青年たちは教会内のどのグループよりも、キリスト者の奉仕と効果的伝道に対する可能性を持っています。青年の証しには力があります。高校科の教師は、証しをすることはキリスト者生活の一部分であることを知らせることにより、生徒たちに証しをすることを励ますべきです。それは次のような理由によって必要なことです。

一、キリストが命令されたから。「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします」(ヨハネ二〇・二一)。彼はまた、模範を示されました(マタイ九・三五)。

二、生徒自身の霊的祝福のために。証しをしないキリスト者は不安定であり、未熟です。彼らは完全に成長していません。その霊的体験はバランスがとれていません。肉体の領域で、完全に成熟していません。かたが、うまく調節のできていない人は病氣です。同様に、証しをしないキリスト者は病氣のキリスト者です。

三、他の人々の祝福のために。生徒たちは、キリストから離れている友人や学友が失われていることについて心配をすべきです。彼らをキリストに紹介するのは生徒たちの責任です。

ティーン・エイジャーの証し

背中につけた「私はキリスト者です」というサインは必要でないし、キリストを証しする賢明な方法ではありません。けれどもティーン・エイジャーたちが、自分のキリスト者としての旗色を鮮明にするためのよい方法があります。

生活を生きること。ティーン・エイジャーたちは、どこに行っても、何をしても、何を言っても、それがイエス・キリストを反映することを感じるべきです。人々は気がついて質問をするでしょう。こう

して証しをする機会が与えられるのです。

聖書を持ち歩くこと。多くのティーン・エイジャーたちは、教科書と一緒に聖書を学校に持っていくと、次のような結果があることを発見しています。(1)キリスト者生活をもっと注意深く送るように、自分自身励まされること。(2)よい会話のいとぐちができること。(3)神のみことばを読む機会がさらに与えられること。

極端主義者にならないこと。そして、証しをするためにきらわれないけません。キリストは私たちに、何についても向こうみずな振舞をすることを望んでおられません。ある人はこう言いました。「私たちはこちらにウルトラ過ぎても、あちらにウルトラ過ぎてもいけません。」

愚かなアプローチは、アプローチをしないことよりも悪いのです。知恵のない熱心は益よりも害を多く与えます。ティーン・エイジャーは聖霊に導きを求め、人物、時間、場所に、自分のアプローチを合致するように適応させるべきです。

(教会における伝道についての第九章も参照のこと)

質 問

一、なぜ高校生を得ることは特別に重要なのですか？

- 二、伝道にはどのような五つの段階が含まれていますか？ 説明しなさい。
- 三、青年期の基本的な必要は何ですか？
- 四、教師は伝道という線に添って何をする事ができますか？
- 五、ティーン・エイジャーはどのようにして伝道をする事ができますか？

第九章 教会における高校生の位置

教会が十代の者たちのためにできる最も重要なことは、「キリストを彼らに明らかにする」という短い言葉で要約されます。前の章で私たちは、高校科がその若者たちの必要を満たすために努力しなければならぬ方法を取り扱いました。今ここで私たちは、高校生は教会のプログラムのどこに、どのようにして当てはまるかということを取り扱います。

「明日の希望である青年」とか、「明日の市民——青年」という有名な言葉は理想的であり、すばらしく聞こえます。けれども教会が、そのティーン・エイジャーたちが、確かに明日の希望となることを確認できる唯一の具体的な方法は、彼らが今日、教会の中で極めて活動的であることを確認することです。高校生は教会の中で、他のだれもが満たすことのできない、決定的な場所、選ばれた場所を占めているのです。

教会がしなければならぬ事

教会は若者たちと意志の伝達をしなければなりません。教会は彼らの理解できる言葉で福音を提供しなければなりません。J・エドガー・フーパーは言いました。「あなたがたは青年たちに話しかけるときに、成層圏に昇っているなら、彼らを教会に引きつけることはできない。」

教会はその教えの基盤を広げなければなりません。

「ある青年指導者は、青年たちを獲得するのに必要なことは、三十分間の同心の経験にさらすことである。それから先は主が免倒を見て下さると主張（あるいは少なくとも暗示）する。確かに若者たちを回心させることは必須である。けれどもそれは始まりでしかない。青年をキリストのために得ることは三十分の仕事、いや一年の仕事でもない。それはほとんどの場合、若者の生活と人格のあらゆる面に対する配慮を含む、二十年間の過程である。」（ホグランド）

教会は適切なプログラムを提供しなければなりません。また、興味ある活動や、高校生の中に内臓さ

れているエネルギー発生装置の、適切なはけ口を備えなければなりません。彼らが人生の嵐の中で必要とするのは、彼らがしっかりと立つことのできる、難攻不落の、不動の何かなのですから、私たちは「ちょっとしたかわいらしい活動」くらいで満足をしてはいけません。「教えの基盤を広げる」教会は十代の者たちに、あまり多くの事をやらせすぎると恐れる必要はありません。日曜学校はティーン・エイジャーたちに、キリスト者生活における訓練を提供します。教会の青年プログラムは成長する機会と、その訓練を実践に移す機会を与える実験室のようなものです。

教会は適切な指導者と後援者を提供しなければなりません。ティーン・エイジャーに関する場合、まず第一に、牧師は理解をしてくれる、近づきやすい人でなければなりません。それから彼はよい指導者と後援者（スポンサー）を備えるように取り計らわなければなりません。伝道論の講義をしていたある講師が、ペンテコステ教会における自分の生い立ちをこのように話してくれました。「私たちにはすばらしい後援者がいました。私たちは刑務所や老人ホームの集会を助けました。私たちは指導を受け、私たちのエネルギーはキリスト教活動に向けられました。私たちの仲間の大部分は今日、神のために生きています。ある者は宣教地で奉仕をし、ある者はまた別の面での奉仕をしています。私たちのあとにいた次のグループは、同じタイプの家庭、同じタイプの学校から集まっていました。後援者は、青年活動の必要を認めない、別の種類の人たちでした。このグループの中で今日教会に出席するのは二人だけ

で、他の者たちは教会のすぐそばで、非キリスト者の家庭を築いています。」

教会はその青年プログラム全体を整合しなればなりません。はっきりと目ざめている牧師による、青年意識のある教会は、青年プログラム全体を整合し、統合する必要があります。教会の各部は、別々の独立存在として運営されるべきではありません。日曜学校が独自に働き、青年部が別の方向に行動を打ち出し、他の部（ミッショネット人訳注・米国アッセンブリー教団の少女用プログラム、「小宣教師」の意Vなど）が気ままに活躍したり、へまをやったりしてはなりません。このようなことが起こるところには、幻と計画の欠除という失敗があるのです。各部の合同協力が要求される教会のプログラムは、どんなに効果的に、また円滑に行われることでしょうか。

青年評議会

青年を取り扱う教会の各領域の代表者によって構成される青年評議会は、この必要に応じる理想的な解答です。メンバーは次のような人たちです。

青年担当牧師

高校科主任

中学科主任

青年科主任

ローヤル・レンジャー指導者（訳注・ボーイ・スカウトのような組織、米国アッセンブリー教団独自のもの）

ミッショネット指導者

青年会長（青年の意見を入れるため）

教会役員一名 この人の資格は青年に対する幻と愛を持っていること、彼らに必要としているものを備えてあげる必要を理解していることです。（これらの条件を満たしている人は大抵自分でも、一人か二人のティーン・エイジャーを持っていてるものです。）

牧師（職権によるメンバー）

この評議会は一か月に一度ほど会合して、次の事を行います。

- (1) 現在のプログラムの欠点を検討し、矯正方法を考えます。
- (2) 各部のプログラムの整合をし、講師、プログラム、映画などの重複を避けます。
- (3) 活動の計画を立てます。親睦会の型や時間を適切な間隔できめ、一週間に三回もあつたかと思う

と次の六週間には何もないということがないようにします。

教会に対する高校生の責任

高校科に対するティーン・エイジャーの態度と教会に対する態度の間には、明白な関係があります。もし高校科との関係が満足できるものなら、それは多分、そのまま、教会と生徒との関係に持ち越されます。

高校生はおとなになりつつあります。高校科の水準に達するまでに、彼らはもっと個人的責任を持つように期待されるべきです。

新生し、献身した高校生のすべき事

- 一、教会員になること。会員になることによって、彼らの基本的な帰属意識の欲求が満たされます。
- 二、教会の活動に参加すること。特別音楽、会場案内、青年聖歌隊または一般聖歌隊、あるいはオーケストラなどに参加すべきです。ティーン・エイジャーの聖歌隊のメンバーには、おとなと同じように、おとなの行動が要求されます。いかなる教会も、行儀の悪い青年たちによって集会の礼拝の空気を荒らされることを見逃がすわけにはいきません。

三、青年会のプログラムに積極的に参加すること。

四、女子ならミッシュネットを、男子ならローヤル・レンジャーまたは類似の活動を支援すること。

五、教会が町の別の地域、あるいは市の郊外で、午後、日曜学校の時間を持っているなら（個人の家庭、または適当な建物で）、ティーン・エイジャーたちはただ機会を与えられるだけでなく、協力することを強く勧められるべきです。このような試みは適切に、また力強く監督されるべきこととは言いません。ティーン・エイジャーたちは特別音楽や、証しをすることができずし、年少のクラスを教えることさえできるのです。あなたの教会に、このような型のアウトリーチ・プログラムがないならば、今こそ一つ実行することを考えるべき時ではありませんか。必要とされる努力と金銭は、この種の伝道計画が教会にもたらす特別な祝福によって補われ、余りがあるでしょう。教会自体の出席者が増加し、さらに多くの魂がキリストに導かれ、青年たちは盛んになるでしょう。

六、教会が後援する、他のすべての伝道、あるいは拡大プログラムに参加すること。

七、個人的証しを通して、友人や知人を主のもとに連れて来ること。

- 一、高校生に対する教会の責任は何ですか？
- 二、青年活動にはなぜ、適切な後援者が必要ですか？
- 三、青年評議会とは何かを説明しなさい。だれがそれに所属しますか？
- 四、教会に対する高校生の責任はどういうものですか？
- 五、教会にとって、よいアウトリーチ計画となると思われるものは何ですか？

第十章 目的の吟味

すばらしく賢明なある人が、若者たちを助けるためのすぐれた公式を書いてくれました。

愛をもって彼らを取り囲みなさい。

しつけをもって彼らを守りなさい。

交わりを通して彼らを知りなさい。

立派に振舞うよう彼らを信頼しなさい。

よい模範を彼らに示しなさい。

達成するように彼らを鼓舞しなさい。

自立に向かって彼らを訓練しなさい。

礼拝に彼らを導きなさい。

若者たちを愛し、守り、知り、鼓舞し、訓練し、導くという主題は、この書物の九章の間に編み合わされてまいりました。また、教会の地域にいるすべての若者たちを獲得し、キリスト者生活の中で訓練

をするという目的が強調されてきました。

教会がその若者たちを通して何を成就することができるか、また正しく靈感され、指導されるなら、ティーン・エイジャーたちはどのように効果的なキリスト者になるか、ということについてあなたは読んできましたが、ここであなたの状況を調べて下さい。

ある教会は幸いにも、青年たちは何をすることができるとかという幻とともに、若者意識を持つ牧師、精力的な日曜学校長や高校科主任に恵まれています。このような感動と協力があるならば、最も能力のない教師でも偉大な事を行うことができるでしょう。

しかし、あなた自身の教会はこのように恵まれていないかもしれません。たとえあなたがこの事に対してあなたの思いと意志とを傾注したとしても、そのことによって何を達成できるかを、鼓舞し、激励してくれる人がだれもいないかもしれません。もしそのような状態ならば、あなたができる事の目標を設定するのは、高校科の教師であるあなた自身なのです。あなたがこの手引書を研究しようとするほど関心を持っているという事実こそ、この仕事に対する資格があなたにあることを証明しています。

あなたの士気が高められる必要があり、あなたのクラスが沈滞していると感じるなら、あなたのすべき事はこういうことです。

あなたは祈るべきです。 あなたは若者に関心を寄せている他の人々に話すべきです。あなたは、全体

あるいは自分たちの科だけの月例の日曜学校奉仕者会を提案すべきです。それは何か特別立派なものにする必要はありません。ただ新しい考えを紹介したり、古い問題を細かく検討したり、日曜学校に新しいのちを与えるために一致と調和の精神を注入するための、単なる会合でよいのです。この種の企画はまず牧師と協議し、承認を得てから検討すべきであることは、言うまでもないことです。

もしこの大きな規模において何も動き出さないように思えるときには、あなたは自分自身の教師としての資格を向上すべきです。私たちは自分の仕事に関して、いつも賢明であったり、じょうずであったりするわけではありません。けれども私たちは向上することができなのです。自分自身を詳しく調べてご覧下さい。第二章の資格をもう一度調べてみなさい。それから第五章の準備方法を調べなさい。あなたは仕事をしくじっていますか。研究はどうですか。あなたの祈りはお座なりですか、それとも本当に、とりなしをしていますか。あなたはクラスの課外活動を利用していないのではないのですか。今まで失敗したところがあるなら、神の御助けによって成功に変えて下さい。

日曜学校の授業にも、うっとりするような魅力的な面があります。生徒の一人が、重要な決断ができたとか、重大な問題が解決したとか、教師が語った事によって、落胆していたところに光が与えられたなどと発表してくれるときに、誇りでもって心の燃えあがらない教師がいるでしょうか。徹底した教師にとってこういう瞬間は、心がわくわくするような魅力的な瞬間なのです。

しかし、すべての価値ある事業と同様に、このような栄光の瞬間は、それ以前の多方面にわたる、集中的な働きによってのみ可能となるのです。教師はからだに疲れ、頭が疲れている時でも、学課を研究しなければなりません。ある場合には、コンクリートの壁にぶち当たったように思える日曜日があるはずで、生徒との関係がなく、彼らから何の反応も得られないのです。教師は熱心に祈ります。忠実に、欠席者たちの後続（フォロー・アップ）をします。けれども「どうしたのだろう。なぜ彼らの期待に添えないのだろう」と考えるのです。

そのあとで突然、解決が来るのです。研究、祈り、疑いの時間のすべてが有益であったことがわかります。霊的成長はしばしば段階を経て来るものです。ある水準に達すると、物ごとは行きづまり状態になり、何物も変更したり、前進させたりできないように見えます。しかし、やり続ける気持ちを充分に持っている教師は、一挙に解決する日の来ることを期待するのです。もし自分の働きをきちんとやっていいるなら、その日は来るのです。ある日、それは実現するのです。聖霊がグループ全体を取り扱って下さるかもしれません。彼ら全員が学課の真理を自分たちの生活に、本当に適用したいと願うようになるかもしれません。しかし、多分教師は一人の生徒の態度に変化が起きたのに気づくでしょう。その生徒は教会の中で、今まで見たことのないような敬虔さを示すでしょう。いつも以上に祈り、交わりやすくなるかもしれません。彼は個人的体験の頂上に到達したのです。そしてさらに上の霊的高嶺へ登って行

くことになるのです。その時教師は「さて、私は何かいつもと違うことをしたのだろうか。どんなよい事をしたのだろうか」と不思議に思うのです。しかし、霊的成長とは、しばしばこのような方法をとるのです。それは一歩、一歩の過程で、ある生徒は他の生徒よりもはしごを速く登ってしまいます。自分はこの過程に対して貢献をしているのだということを知っている教師は、肉体的に疲れていても、もっと魅力的な働きが待ち受けている時でも、なお、ひざまずいて祈り、机に向かって学びをします。

こうすべきである、こうすべきでないという方法論はたやすく書けます。それは子育てのようなものです。食事は指でなく、スプーンでするように小さな子供に教えることの重要性を話すことはやさしいでしょう。甘やかされた、わがままな子供が、スーパーマーケットに来ていたずらをしている場合、いくら注意しても言うことを聞かないので、その母親が気を転倒させながらも、あえてスパイクをするなら、彼女は問題を解決することができましょう。そうです。口で言うことはやさしいのです。しかし、それを行うことは、そんなにやさしくありません。お母さんたちに聞いてご覧なさい。子供たちに、スプーンは指よりもまさっているということを悟らせるには、長い忍耐と便利なふきんとが必要なのです。自分の子供たちに体罰を加えるべきだという忠告を受け入れ実行するには、客観性と勇気と、さらに、手に力を入れることを必要とするのです。

私たちは、実際のな適用をいつも前面に出しながら、過程と原則を順序を追って詳細に説明してきま

参考資料

- ベル Bell, L. Nelson. "A Layman and His Faith," *Christianity Today*, February 2, 1962.
- ブロード Braude, Jacob M. "The 15 Causes of Delinquency," *Family Weekly*, March 15, 1959.
- ブロック Brock, Raymond T. *Into the Highways and Hedges*. Springfield, Mo. : Gospel Publishing House, 1961.
- ゴール誌 GOAL. Springfield, Mo. : Gospel Publishing House.
- ホグランド Hoglund, Gunnar. "Put Muscle in Your Youth Program," *United Evangelical Action*, October, 1961.
- ナイト Knight, Walter B. *3000 Illustrations for Christian Service*. Grand Rapids, Mich. : Wm. B. Eerdmans Publishing Company, 1949.
- マーシャル Marshall, Mrs. Catherine. *Beyond Our Selves*. New York : McGraw-Hill Book Company, Inc., 1961.
- モアー Mohr, George J. M. D. and Marian A. Despres. *The Stormy Decade: Adolescence*. New York : Random House, 1958.
- モザー Moser, Clarence G. *Understanding Boys*. New York : Association Press, 1953.
- モザー Moser, Clarence G. *Understanding Girls*. New York : Association Press, 1957.
- 不詳 *Our Ministry to Youth*. Springfield, Mo. : Gospel Publishing House, 1962.

した。これからはあなた次第です。それは容易ではないかもしれませんが。けれども価値のあることです。私たちはあなた方を一週間ずつと忙しくさせ、ティーン・エイジャーたちを日曜日の一時間だけ喜び、彼らの魂の運命を決定する永遠の世界にまで進入するに違いありません。高校科の働きはでたために行ってはいけません。なぜなら目的は厳粛であり、目標点は感動的であり、必須のものだからです。時には、その働きは困難すぎると思えるかもしれませんが。けれども神は常にともにおられて私たちを助けて下さるということを知るときに、私たちは励まされ、支えられるのです。

「この働きは厳粛である。ゆえに、いいかげんに行ってはならない。この働きは困難である。ゆえに、力を抜いてはならない。機会は短い。ゆえに、遅れてはならない。道は狭い。ゆえに、さ迷ってはならない。ほうびは栄光に輝いている。ゆえに、気がくじけてはならない。」(ナイト)

私たちはもう一度、ウインターズ博士の言葉を思い出します。「今日の子供たちの九十パーセントは有望であり、健康であり、役に立つ。そしてすばらしい未来が期待されている。彼らは、偉大な者となるように彼らを訓練し、指導し、愛してあげる私たちの能力によってのみ、制限されるのである。」

青年たちのいのちを、自分たちのものとして主張しなさい。正しい選択ができるように彼らを訓練しなさい。偉大な神の恵みの中に愛をもって彼らを導き入れなさい。

ウォリン Wallin, La Vose A. *Keys for the Sunday School Teacher*. Los Angeles : Cowman Publications, 1954.

教える秘訣 高校科編

© 1978

1978年11月20日 発行

定価 1,000 円

編者 ジョン・ジャクソン
訳者 伊藤 顯 榮
印刷 村松印刷株式会社

発行所 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団日曜学校部

〒170 東京都豊島区駒込3丁目15番20号

振替 東京 0—10877番 電話 03-918-0497